

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	0126200301
ナンバリングコード	N12001-L-11
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	水 1, 水 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	井手 紀子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
井手 紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。（毎講義2時間ずつ）
評価方法	授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。
テキスト	解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院
参考文献	なし。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	医師として大学病院での教育、臨床経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループディスカッション、プレゼンテーション

授業計画

授業計画
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。（毎講義2時間ずつ）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	はじめに 解剖学・生理学		
2	栄養の消化と吸収1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能		
3	栄養の消化と吸収2 小腸・大腸の構造と機能		
4	栄養の消化と吸収3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		
5	呼吸と血液の働き1 呼吸器の構造と呼吸運動呼吸と血液の働き		
6	呼吸と血液の働き2 ガス交換とガスの運搬		
7	呼吸と血液の働き3 呼吸運動の調節		
8	呼吸と血液の働き4 血液の組成と機能		
9	血液の循環とその調節1 心臓の構造、心臓の興奮とその伝播		
10	血液の循環とその調節2 心臓の収縮、心周期血液の循環と調節		
11	血液の循環とその調節3 血圧・血流量の調節		
12	血液の循環とその調節4 微小循環、リンパの循環		

授業計画

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
13	体液の調節と尿の生成 1 腎臓の構造、系球体・尿細管・傍系球体装置		
14	体液の調節と尿の生成 2 系球体濾過、クリアランスと、排尿の機序		
15	体液の調節と尿の生成 3 体液の調節		

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	0126200401
ナンバリングコード	N12001-L-11
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	井手 紀子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
井手 紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系である。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説ができるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)
評価方法	授業への積極性(5%)、筆記試験(95%)で総合的に評価する。60点以上を合格とする。
テキスト	解剖生理学 と同じ教科書を使用する。 解剖生理学 人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院
参考文献	なし。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	医師として大学病院で教育、臨床経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループディスカッション、プレゼンテーション

授業計画

授業計画
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達		
2	自律神経による調節		
3	内分泌による調節1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体		
4	内分泌による調節2 甲状腺、膵臓、副腎、甲状腺・副甲状腺		
5	内分泌による調節3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節		
6	身体の支持と運動1 骨と筋の構造		
7	身体の支持と運動2 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋		
8	身体の支持と運動3 筋の収縮		
9	情報の受容と処理1 中枢神経の構造と機能		
10	情報の受容と処理2 末梢神経の構造と機能		
11	情報の受容と処理3 脳の高次機能、運動機能、感覚機能		

授業計画

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
12	情報の受容と処理 4 特殊感覚の構造と機能		
13	身体機能の防御と適応 1 皮膚の構造と機能、生体の防御機構		
14	身体機能の防御と適応 2 体温とその調節		
15	生殖・発生と老化のしくみ		

基本情報

科目名	生化学
時間割コード	0126200501
ナンバリングコード	N12001-L-11
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	月 5
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	村上 香
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
村上 香

詳細情報

授業の目的・到達目標	生化学は諸々の生命現象を化学的に解明する学問であり、薬理学や栄養学と密接に関連している。本科目では、人体を構成する物質および生命現象の化学的基盤について学ぶ。基礎医学と医療とのつながりに関連付けることができるようになる。
履修上の注意事項	ライフサイエンス が基礎となるため同時に履修することが望ましい。また、高校の生物と化学の教科書や図説等で復習（講義の予習）することで、理解しやすくなる。ただ暗記するのではなく、考えて理解すること。質問等、授業への積極的な参加を期待する。
評価方法	毎回の小テスト50%、単位習得試験50% 正解とフィードバックを送信する。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学（医学書院）
参考文献	マクマリー生物有機化学生化学編（原著8版）（丸善出版）
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	アクティブラーニング：質問法を活用してこれまでの学びの定着度の確認、さらに、関連性を明示する。 ICTを取り入れた講義：毎回MS Formsを用いて理解度を確認しながら授業を展開する。MS Formsのフィードバックにより、事後学習のための振り返り事項を明示する。

授業計画

授業計画
<p>事前学習（90分）：教科書を読んで、意味の分からない単語を調べて自分なりに理解しておく。 ライフサイエンス の内容や高校の生物・化学の教科書・図説等で該当箇所を確認して理解を深める。</p> <p>講義（90分）：小テストによる振り返りと理解度の確認。 アクティブラーニング手法としては質問法を行うので、積極的に参加する。</p> <p>事後学習（150分）：小テストに備えて講義の振り返りを行う。 第2回目講義からは受験した小テストのフィードバックを参考に振り返りを行う。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	人体の構成物質	事前学習：p1-20（授業計画参照）解剖生理学の教科書等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
2	炭水化物の構造	事前学習：p50-66（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
3	炭水化物の機能	事前学習：p50-72（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	

授業計画

事前学習（90分）：教科書を読んで、意味の分からない単語を調べて自分なりに理解しておく。
 ライフサイエンス の内容や高校の生物・化学の教科書・図説等で該当箇所を確認して理解を深める。
 講義（90分）：小テストによる振り返りと理解度の確認。
 アクティブラーニング手法としては質問法を行うので、積極的に参加する。
 事後学習（150分）：小テストに備えて講義の振り返りを行う。
 第2回目講義からは受験した小テストのフィードバックを参考に振り返りを行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	脂質の構造	事前学習：p98-110（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
5	脂質の機能	事前学習：p98-110（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
6	タンパク質の構造	事前学習：p130-135（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
7	タンパク質の機能	事前学習：p130-140（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
8	酵素	事前学習：p27-39（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
9	代謝とエネルギー産生	事前学習：p22-27（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
10	糖質の代謝（解糖）	事前学習：p68-77（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
11	糖質の代謝（クエン酸回路）	事前学習：p78-82（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
12	糖質の代謝（電子伝達系・酸化的リン酸化）	事前学習：p82-86（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
13	糖質の代謝（糖新生）	事前学習：p86-94（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
14	ホルモン	事前学習：p261-268（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
15	まとめ（小テストの振り返り）	これまでの内容を授業ノート、プリントとテキストでしっかりと復習しておくこと。	

基本情報

科目名	感染症学
時間割コード	0126200701
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
三森 龍之、徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、科学的根拠に基づく看護実践に必要な感染症学および化学療法薬の専門知識を身に付ける。具体的には、ヒトと共生する常在菌叢の働き、ヒトの健康を害する病原微生物・寄生虫の性質や感染機構を理解し、さらに代表的な感染症について、その感染経路、症状、予防・治療法に関する基礎知識を修得する。また、生体防御機構、各種感染症に有効な化学療法薬・消毒薬の病原体に対する作用とヒトへの影響について理解を深めるとともに、耐性菌、新興感染症・再興感染症の出現、日和見感染症の増加等の医療分野における重要な課題について説明できるようになる。さらに、がん治療に用いる化学療法薬の種類と作用機序についても概説できるようになる。
履修上の注意事項	1) 毎回の準備学習として、教科書を熟読する。(約2時間) 『わかる!身につく!病原体・感染・免疫』(主に第1-6回に使用)、 『コメディカルのための薬理学』-第1章,12章,13章-(第7-15回に使用) 2) 授業には指定教科書,ノート,プリントを持参する。講義内容を書留め、その日の内に復習する(約2時間)。 3) 講義プリントはファイルし、専門用語を正確に覚え、その概念を正しく理解する。 4) 教科書・参考書・講義プリント等について理解できない箇所は、教員に質問する。
評価方法	1) 「授業の目的・到達目標」に示した内容の達成度を評価するため、学期末に筆記試験を行う。 配点:第1~6回の講義 40%、第7~15回 60% 2) 小テスト結果のフィードバックとして、授業内でポイントの解説を行う。
テキスト	1) 『わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂3版』 藤本 編, 南山堂, 2017年 2) 教員作成プリント 3) 『コメディカルのための薬理学 第4版』 渡邊 他編, 朝倉書店, 2024年(2学期の薬理学でも使用する)
参考文献	1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 微生物学(第14版)』 南嶋 他著, 医学書院, 2022年 2) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学(第15版)』 吉岡 他著, 医学書院, 2022年 3) 『コンパクト微生物学 改訂第5版』 小熊 他監修, 南江堂, 2021年 4) 『わかりやすい薬理学 第4版』 安原 他編, ニューヴェルヒロカワ, 2020年 5) 『シンプル薬理学 改訂第6版』 野村 他編, 南江堂, 2020年 6) 『微生物学・感染看護学 -微生物から感染防止を考える- 第2版』 岡田 他編, 医歯薬出版, 2021年
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	徳富:管理薬剤師としての調剤薬局勤務経験に基づき、化学療法薬の主作用・副作用および服薬指導等の具体的事例を紹介することで、看護実践に必要な思考力・応用力修得の一助となるよう指導する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	ICT活用の取り組みとしてCampus Squareにアップロードする第1~6回の講義資料・まとめ問題を事後学修にいかす。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	感染症学概論、常在菌叢とその働き(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
3	細菌と感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
4	真菌と感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
5	ウイルスと感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
6	寄生虫・原虫と感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
7	感染症に対する薬物療法（化学療法薬概論）（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
8	薬物動態（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
9	感染に対する生体防御機構（免疫系）、予防接種用薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
10	抗病原微生物薬の作用機序（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	抗菌薬（抗生物質）（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	抗真菌薬、抗原虫薬、抗寄生虫薬、抗ウイルス薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	消毒薬・殺菌薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	抗がん薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明する学問であり、病理学は、疾病の原因、機序などを明らかにする学問である。本科目では、科学的根拠に基づく看護実践の土台となる専門知識を学ぶ。具体的には、解剖生理学で学んだ人体の正常な仕組みに関する知識に基づき、疾病の成り立ちを基本的な機序に沿って整理する。さらに、その結果引き起こされる組織や臓器の変化に関する正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎的事項を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎知識を身につける。正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し説明できること、病態生理学の知識を用いて医療分野のニーズに対応できるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること(2時間程度)。 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること(2時間程度)。 3) 講義プリントはファイルし、毎回、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくること。 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。
評価方法	1) 筆記試験(100%)で評価する。 2) 「正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し、説明できる」を評価基準とする。 2) 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]「病理学」(第6版) 大橋健一ほか著、医学書院、2021年 2) 教員作成プリント
参考文献	1) なるほどなっとく!病理学 病態形成の基本的な仕組み 改訂2版、小林 著、南山堂、2019年 2) シンプル病理学 改訂第8版、笹野 他編、南江堂、2020年 3) わかりやすい病理学 改訂第7版、恒吉 監修、南江堂、2021年 4) ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 第7版、山内 編、メディカ出版、2023年 5) 看護のための臨床病態学 改訂5版、浅野 他編、南山堂、2023年 6) ヒューマンボディ からだがわかる解剖生理学 原著第7版、坂井 他監訳、エルゼビアジャパン、2023年
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	該当なし
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	病理学で学ぶこと、病気の原因(内因、外因)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
2	細胞・組織の損傷と修復、炎症	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	免疫・アレルギー，移植と再生医療	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
4	感染症	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
5	循環障害：局所性	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
6	循環障害：全身性	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
7	代謝障害：脂質代謝障害、タンパク質代謝障害	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
8	代謝障害：糖代謝障害、そのほかの代謝障害	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
9	老化と死	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
10	先天異常	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	遺伝子の異常と疾患	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	腫瘍：腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	腫瘍：腫瘍の発生病理	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	腫瘍：腫瘍の診断と治療	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	生活習慣と環境因子による生体の障害	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	井手 紀子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名	
井手 紀子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。
履修上の注意事項	内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。
評価方法	授業への積極性(5%)、筆記試験(95%)で総合的に評価する。60点以上を合格とする。
テキスト	「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂
参考文献	1. (系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院 2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	医師として大学病院での教育、臨床経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	小テスト、レポート、グループディスカッション

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	呼吸器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
2	呼吸器 呼吸器感染症、アレルギー、慢性閉塞性疾患、間質性肺疾患、気道系疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
3	呼吸器 腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	循環器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
5	循環器 心不全、不整脈、心筋疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
6	循環器 心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈疾患、静脈疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
7	消化管 症候、検査と治療、食道の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
8	消化管 胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
9	肝・胆・膵 症候、検査と治療、肝臓疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
10	肝・胆・膵 胆道疾患、膵臓疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
11	代謝・栄養 症候、検査と治療、糖尿病他の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
12	内分泌 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	内分泌 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
14	腎・泌尿器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
15	腎・泌尿器 腎疾患、泌尿器疾患、腎不全	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	井手 紀子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門基礎分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
井手 紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	病態生理学 に引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学び、各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を理解できる。疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解できる。
履修上の注意事項	内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。 解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。
評価方法	授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。
テキスト	「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂
参考文献	「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	医師として大学病院で教育、臨床経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループディスカッション、プレゼンテーション

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	脳・神経 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
2	脳・神経 脳血管障害、神経変性疾患、中枢神経系の脱髄性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
3	脳・神経 末梢神経等の疾患、筋疾患、感染症、機能的疾患、腫瘍	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	血液 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
5	血液 赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
6	膠原病・アレルギー 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
7	膠原病・アレルギー 膠原病と関連疾患、アレルギー性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
8	運動器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
9	運動器 外傷、骨折、脱臼、捻挫	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
10	運動器 脊椎・脊髄の疾患、上肢・下肢の疾患、腫瘍、末梢神経麻痺	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
11	女性生殖器 月経困難症、子宮内膜症、腫瘍、更年期障害、不妊症	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
12	眼 症候、検査と治療、結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
13	耳鼻咽喉 症候、検査と治療、中耳炎、めまい/難聴、副鼻腔炎、腫瘍	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと (2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む (2時間)	
14	皮膚 症候、検査と治療、皮膚炎、色素性母斑、熱傷、褥瘡	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと (2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む (2時間)	
15	精神 症候、検査と治療、統合失調症、うつ病、双極性障害	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと (2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む (2時間)	

基本情報

科目名	薬理学
時間割コード	0126200801
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	火 2
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名	
徳富 芳子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、科学的根拠に基づく看護実践に必要な薬物療法の専門知識を身につける。 薬物とは、恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で、疾病の治療・予防・診断に用いられる化学物質である。日進月歩の薬物療法が、医療・保健・福祉の現場で適正かつ有効に行われているか判断できるよう、各種薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識に基づく論理的思考力を駆使して、副作用の発現防止に寄与するための応用力を身につける。薬物療法の専門知識を用いて論理的思考を展開し、医療分野のニーズに対応できるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること（2時間程度）。 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること（2時間程度）。 3) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。こと。 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。
評価方法	1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。 2) 「薬物療法の専門知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。 3) 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。
テキスト	1) 『コメディカルのための薬理学 第4版』渡邊 他編, 朝倉書店, 2024年（1学期の感染症学でも使用） 2) 教員作成プリント
参考文献	1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 第15版』吉岡 他著, 医学書院, 2022年 2) 『わかりやすい薬理学 第4版』安原 他編, ヌーヴェルヒロカワ, 2020年 3) 『シンプル薬理学 改訂第6版』野村 他編, 南江堂, 2020年 4) 『看護学テキストNiCE 薬理学』荻田 他編, 南江堂, 2020年 5) 『今日の治療薬2024』伊豆津他編, 南江堂, 2024年 6) 『はじめる！つかえる！看護のための薬理学』時政 著, 南山堂, 2017年 7) 『イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂2版』町谷 著, 南山堂, 2020年 8) 『ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ちと回復の促進 臨床薬理学 第7版』赤瀬 他編, メディカ出版, 2023年 9) 『ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 改訂2版』ナーシング・サブリ編集委員会, メディカ出版, 2021年 10) 『くすりがわかる 作用機序×使い方×観察・ケア』柳田 監修, 南山堂, 2023年
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	管理薬剤師としての調剤薬局勤務経験に基づき、薬物の主作用・副作用および服薬指導等の具体的事例を紹介することで、看護実践に必要な思考力・応用力修得の一助となるよう授業を展開する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	薬理学総論（薬物療法、関係法規、剤形、薬物の作用点）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	薬理学総論（薬物相互作用）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
3	薬理学総論（薬物動態）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
4	薬理学総論（年齢・臓器障害等による薬物動態変化）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
5	末梢神経系作用薬（交感神経系作用薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
6	末梢神経系作用薬（副交感神経系作用薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
7	末梢神経系作用薬（筋弛緩薬、局所麻酔薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
8	循環器系作用薬（抗不整脈薬、心不全治療薬、狭心症治療薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
9	循環器系作用薬（高血圧治療薬、末梢血管作用薬、利尿薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
10	中枢神経系作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ・抗躁鬱薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	中枢神経系作用薬（抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、麻薬性鎮痛薬、中枢興奮薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	血液疾患に対する薬物、炎症・免疫疾患に対する薬物（抗炎症・抗アレルギー薬、免疫抑制薬、免疫増強薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	呼吸器系疾患に対する薬物（気管支喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳・去痰薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	消化器系疾患に対する薬物（消化性潰瘍治療薬,他）、泌尿器系疾患に対する薬物（排尿障害治療薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	代謝・内分泌系疾患に対する薬物（糖尿病治療薬、痛風治療薬、他）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	看護学概論
時間割コード	0126200101
ナンバリングコード	N12001-L-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 1, 金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名	
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元	

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。
履修上の注意事項	課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習（各2時間）について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、その学習を生かして授業ではグループワーク、意見交換をする（アクティブラーニング）。事後課題では授業での学習を生かしてレポートを作成する。講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。教科書の精読、レポート作成に要する時間は60分である。
評価方法	定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%。 フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、授業内で事前学習の課題について学習内容を確認する機会を設けている。
テキスト	『系統看護学講座 基礎看護学（1）』茂野香おる他、医学書院、2020。『初学者のための看護学講義—学習の基礎を固め、健康な生活を助けよう—』赤峰隆元・古江佳織・上妻尚子・柴田恵子、幻冬舎、2021。
参考文献	随時、紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	実務経験：上妻、古堅、古江、赤峰は病院、施設等において看護師としての実務経験者、柴田は学校における養護教諭の実務経験者である。 実務経験を活かした教育内容：看護師としての経験内容は具体的であり、教科書での学びを看護ケア実践でどのように活かせばよいかについて教授する。また看護ケアの実践場面は病院、施設だけではなく多様な場面で実践されているため学校あるいは日常生活における看護ケアについて教授する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	○事前課題での学習を授業で確認する反転授業を取り入れている。グループワークでは課題について意見を交換するというディスカッションを経験し、協力して課題を達成し他者の意見から学びを深めるといった発見学習につなげている。授業内では学生の発表の機会を設けており、リフレクションすることで自己の課題を再確認するという問題解決学習を実施している。 ○ICT教育としては、事前・事後課題用の授業資料をCampus Squareにアップロードする。

授業計画

授業計画	
看護学概論は看護に関する幅広い知識を学ぶことで、保健医療福祉の専門職者としての自身の考えを明らかにすることを目指した学習である。ここでの学びは、今後の授業内容にもつながることである。また、専門職者として活動する上で、必要不可欠な知識の習得の場である。	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）	オリエンテーション時に事前・事後学習について説明する。事前学習についてはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護学概論は看護に関する幅広い知識を学ぶことで、保健医療福祉の専門職者としての自身の考えを明らかにすることを旨とした学習である。ここでの学びは、今後の授業内容にもつながることである。また、専門職者として活動する上で、必要不可欠な知識の習得の場である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
3	国民の健康状態（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
4	看護の対象の理解（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
5	サービスとしての看護・看護サービス提供の場（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
6	災害時における看護（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
7	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）	事前学習はこれまでの学習を復習する。事後学習はナイチンゲールについて学習したことをまとめる。	
8	医療安全と医療の質保証（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
9	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（赤峰）	事前学習は該当部分の教科書を読む。事後学習は養成制度の特徴を確認する。	
10	看護における倫理（柴田）	事前学習は該当部分の教科書を読む。事後学習は看護倫理からの学びを基に自己の課題を明らかにする。	
11	国際化と看護（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
12	看護とはなにか（柴田）	事前学習は該当部分の教科書を読む。事後学習は看護の定義をまとめる。	
13	小テスト2、看護の理論家について学習（柴田）	事前学習はこれまでの学習を復習する。	
14	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）	事前学習は医療職者の専門性について調べる。事後学習は専門性を高めるための自己の課題を明らかにする。	

基本情報

科目名	基礎看護学（生活援助技術）
時間割コード	0126310202
ナンバリングコード	N13021-L-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	月 1, 月 2, 月 3, 金 1, 金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学び、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性について学ぶ。
履修上の注意事項	講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているため、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。事前・事後学習およびノート作成にかかる時間は各2時間である。
評価方法	定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40% フィードバックとして事前・事後課題および作成したノートへのコメント、あるいは演習と講義の時に説明を行うので確認する。
テキスト	『基礎看護技術』茂野香おる他、医学書院、2023。『基礎看護技術』任和子他、医学書院、2022。『看護がみえる1 基礎看護技術』、医学情報科学研究所、メディックメディア、2018。『看護がみえる2 臨床看護技術』医学情報科学研究所、メディックメディア、2022。『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』三上れつ・小松万喜子、南江堂、2017。『改訂版 パワーアップ問題演習基礎看護学 第2版』山口瑞穂子、サイオ出版、2021。
参考文献	『看護技術プラクティス 第4版』竹尾恵子、Gakken、2019。『基礎看護技術』、深井喜代子、メヂカルフレンド社、2021。『基礎看護学テキスト』深井喜代子・前田ひとみ、南江堂、2023。『基礎看護技術』、松井ミヨ子他、メディカ出版、2022。『看護がみえる3』、医学情報科学研究所、メディックメディア、2022。『看護がみえる4』医学情報科学研究所、メディックメディア、2020。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	実務経験：上妻・古堅・古江・赤峰：看護師として病院勤務経験、柴田：養護教諭として小中高の実務経験。 実務経験を活かした教育内容・病院勤務経験を基盤とした具体的な症例を学生に提示することで初学者の興味を惹くとともに教科書の内容を分かりやすく説明する。実務経験から一般的な知識・技術の習得から個別性への理解の必要性を教授する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	○事前課題での学習を授業・演習で確認する反転授業を取り入れ、演習では役割モデルの経験をもとにしたグループワークを実施することで発見学習につなげている。1年次の学生であるため学生同士の関係性を深めるためにディスカッションの機会を設定し、協力し合うことで問題解決学習を行っている。 ○ICT教育としては、事前・事後課題用の授業資料をCampus Squareにアップロードする。

授業計画

授業計画
看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、環境調整技術（柴田）	オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡する。	
2	コミュニケーション（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	環境調整技術（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
4	活動と休息援助技術（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
5	排泄援助技術（古江）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
6	食事援助技術（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
7	清潔援助技術（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
8	感染予防の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
9	衣生活援助技術（古江）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
10	ヘルスアセスメント（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
11	バイタルサイン（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
12	安全確保の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
13	苦痛の緩和・安楽確保の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
14	看護過程展開の技術（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
15	看護記録、学習のまとめ（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
16	コミュニケーション（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
17	手洗い、ベッドメイキング（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
18	体位変換、移送（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
19	排泄介助（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
20	食事介助（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
21	ヘッドメーキング、記録の確認（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
22	陰部ケア・口腔ケア（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
23	清拭（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
24	無菌操作・滅菌物の取り扱い（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
25	臥床患者のリネン交換（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
26	バイタルサイン（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
27	電法、記録の確認（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
28	実技テスト（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
29	洗髪（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
30	観察と報告：バイタルサイン（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

基本情報

科目名	基礎看護学（診療補助技術）
時間割コード	0126310303
ナンバリングコード	N13021-L-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	月 3, 火 1, 火 3
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	上妻 尚子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。
履修上の注意事項	演習時は、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加してください。身だしなみが整っていない場合は、演習に参加できないことがあります。演習は、2～3グループに分かれて実施します。詳細は別途説明します。 毎回の講義および演習の際には、別途配布する「看護技術学習ガイド」に、看護技術の学習状況を記録し、自身の看護技術の習得状況を確認してください。
評価方法	定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度（演習記録の提出を含む）：40% フィードバックとして、提出された演習時の記録に対して、様式や内容について随時指導する。講義内で小テストを実施する。小テストは終了後に解説する。
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護技術」有田清子他（医学書院）2023年 「看護がみえる 基礎看護技術」藤本真記子他（Medic Media）2021年 「看護がみえる 臨床看護技術」近藤一郎他（Medic Media）2022年 「看護がみえる フィジカルアセスメント」熊谷たまき他（Medic Media）2022年 「パワーアップ問題集 基礎看護学」山口瑞穂子（サイオ出版）2021年 「ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第2版」三上れつ・小松万喜子他（南江堂）2023年
参考文献	「新訂版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス」吉田みつ子・本庄恵子 インターメディカ 2021年 「新訂版 写真でわかる臨床看護技術アドバンス」本庄恵子・吉田みつ子 インターメディカ 2021年 「完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド」坂本すが 照林社 2016年 「看護技術プラクティス」竹尾恵子 Gakken 2019年 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版」任和子他 医学書院 2021年 他
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	実務経験：上妻・古堅・古江・赤峰：看護師として病院勤務経験、柴田：養護教諭として小中高の実務経験。 実務経験を活かした教育内容：看護師としての病院勤務の経験などから、各看護技術の実施方法についての基本的なことから対象者の状況に応じた実施方法も含めて、デモンストレーションで提示するとともに学生個々の実施状況に応じて教授する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	演習は、グループ内で他の学生の実施状況をみて自身の看護技術を振りかえりながら、お互いの実施状況や対象者の状況に応じた技術の提供等に関するディスカッションを行い、各看護技術の習得を目指す。 ICT教育として、事前事後課題をCampus squareに提示、質問や授業の理解状況の確認テスト等にFormsを活用する。

授業計画

授業計画
各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	講義：症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、検体検査に関する技術についてノートに整理する（2時間）。	
2	講義：創傷管理技術（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、創傷管理技術についてノートに整理する（2時間）。	
3	講義：食事の援助技術（経管栄養法・中心静脈栄養）（古堅）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、食事の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
4	講義：排泄の援助技術（浣腸・導尿・ストーマケア）（古江）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、排泄の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
5	講義：与薬の援助技術の基礎（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術の基本知識についてノートに整理する（2時間）。	
6	講義：与薬の援助技術の実際 経口与薬・経皮与薬・直腸内与薬・点眼・点鼻（赤峰）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
7	講義：与薬の援助技術の実際 注射・輸血（赤峰）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
8	講義：呼吸・循環を整える技術（酸素療法・吸入）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、酸素療法や吸入の技術についてノートに整理する（2時間）。	
9	講義：呼吸・循環を整える技術（口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引、排痰ケア）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、吸引や排痰ケアの技術についてノートに整理する（2時間）。	
10	小テスト 講義：呼吸・循環を整える技術（末梢循環促進ケア・人工呼吸療法）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、呼吸循環を整える技術についてノートに整理する（2時間）。	

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	講義：症状・生体情報モニタリングの技術(古江)	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、症状・生体情報モニタリング技術についてノートに整理する（2時間）。	
12	講義：診察・検査・処置の介助技術（古堅）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、診察・検査・処置の介助技術についてノートに整理する（2時間）。	
13	講義：救命救急処置術（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、救命救急処置術についてノートに整理する（2時間）。	
14	講義：死の看取りの技術（柴田）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、死の見取りの技術についてノートに整理する（2時間）。	
15	講義：学習支援(柴田)	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、看護師が行う患者への学習支援についてノートに整理する（2時間）。	
16	演習：褥瘡管理技術（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
17	演習：採血（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
18	演習：経管栄養（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
19	演習：看護記録 グループワーク（担当者全員）	事前：これまでの演習に関する記録を整理する（2時間） 事後：グループワークでの学びを基に、自分のこれまでの記録を振り返り、今後の記録の書き方について具体的な方法をノートにまとめる（2時間）	
20	演習：皮下注射（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
21	演習：浣腸・排便（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
22	演習：モニタリング（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
23	演習：酸素療法(担当者全員)	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する(2時間) 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する(2時間)	
24	演習：口腔内・気管内吸引(担当者全員)	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する(2時間) 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する(2時間)	
25	演習：導尿(担当者全員)	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する(2時間) 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する(2時間)	
26	演習：フィジカルイグザミネーション(担当者全員)	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する(2時間) 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する(2時間)	
27	演習：フィジカルアセスメント(担当者全員)	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する(2時間) 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する(2時間)	
28	実技試験(担当者全員)	事前：1学期の学習内容およびフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントの演習での学びを基に実技試験の実施方法を考える(2時間) 事後：自分が実施した実技試験内容を振り返り、技術の習得に向けての今後の課題を明確にする(2時間)	
29	演習：心肺蘇生法(担当者全員)	事前：心肺蘇生法の方法を学習する。事後：実施した心肺蘇生法についてデータをもとに振り返り、一般市民への普及啓発に活用する。	
30	演習：カルテの見方と情報収集(担当者全員)	事前：提示症例に対する情報収集を行う。事後：事前に行った情報収集を振り返り不足分を捕捉し、情報収集の意義を考える。	

基本情報

科目名	臨床看護学総論
時間割コード	0126310601
ナンバリングコード	N13021-L-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	火 1, 火 3
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>本科目では、看護の対象者の状況(ライフサイクル、場、健康状態、症状、治療)に応じた理解とそれに応じた看護について学ぶことを目的とする。</p> <p>1.健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解できる。2.健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習できる。3.主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習できる。4.臨床看護についての学びを総括し、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけるための自己の課題を明らかにすることができる。</p>
履修上の注意事項	<p>第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。授業は事前課題で取り組んだ学習内容をもとにグループワーク、発表を行うことで確認する(アクティブラーニング)。授業での学習をもとに事後課題ではレポートを作成することでまとめる。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。課題学習、レポート作成に要する事前学習と事後学習はそれぞれ2時間である。</p>
評価方法	<p>筆記試験：60%、学習態度・状況(小テスト、レポート提出)：40%。 フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。</p>
テキスト	<p>系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永他、2022、医学書院</p>
参考文献	<p>随時、紹介する。</p>
実務経験のある教員による授業の有無	<p>有</p>
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>実務経験：上妻・古堅・古江・赤峰：病院、施設等での看護師の実務経験、柴田：学校での養護教諭の実務経験を有す。 実務経験を活かした教育内容：臨床での看護ケアの実践から健康障害を持つ人への理解を深める学習内容を教授する。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>○事前課題での学習を授業で確認する反転授業、グループワークでの発見学習、他者との意見交換でディスカッションをすることで問題解決学習に取り組む。 ○ICTを取り入れた授業としては、事前・事後学習の授業資料をCampus Squareにアップロードする。</p>

授業計画

授業計画
<p>臨床看護について学ぶことで、看護の必要性の理解を深める。また、主要な症状の処置・治療についての学びを、看護過程の展開において活用する。オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族(柴田)	オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認する。	
2	主要症状を示す患者の看護：痛み、呼吸障害(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
3	主要症状を示す患者の看護：意識障害、グループワーク(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	

授業計画

臨床看護について学ぶことで、看護の必要性の理解を深める。また、主要な症状の処置・治療についての学びを、看護過程の展開において活用する。オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	主要症状を示す患者の看護：循環障害（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
5	主要症状を示す患者の看護：消化・排泄障害（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
6	小テスト1、症状と看護について（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
7	健康状態の経過に基づく看護（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
8	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
9	治療・処置を受けている患者の看護：集中療法（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
10	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
11	治療・処置を受けている患者の看護：化学療法（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
12	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
13	治療・処置を受けている患者の看護：手術療法（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
14	事例による看護実践の展開（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	

基本情報

科目名	小児看護学概論
時間割コード	0126311801
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、鎌田 晃子、二宮 球美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>子どもを取り巻く社会環境の変化と多様化する子どもと家族の健康ニーズに対し、成長発達に応じた小児看護の基礎的能力を涵養することを目的としている。</p> <p>目標としては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健に係る法律、制度、政策を説明できる 2. 子どもの成長発達段階の特徴を説明できる 3. 小児看護で用いられる概念、理論を活用し、標準的な発達の子どもの行動を説明できる <p>以下のディプロマ・ポリシーに対応している科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生命・生活・人生」を共に考えることができる能力 2. 保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し、課題解決の糸口を探求できる能力
履修上の注意事項	<p>カリキュラムポリシーに則り、共通科目・共通専門科目・専門基礎分野・基礎看護学系の専門分野科目を基盤として講義を進める。</p> <p>本科目は、小児看護学実習の先修科目の一つである。小児看護学実習で理論と実践の統合をはかることを見据え、科学的根拠に基づき小児看護学を説明できるレベルに達することを期待する。</p>
評価方法	<p>単位取得資格:2/3以上の出席が前提</p> <p>* 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす</p> <p>* 30分以内の遅刻・早退の合計3回を 欠席1回とする</p> <p>1. 定期試験 80%</p> <p>2. 課題内容 20%</p> <p>定期試験では、小テスト内容だけでなく講義内容、課題内容、テキスト・副教材内容から出題する。</p> <p>課題は提出しただけでは評価対象とはせず、提出内容により評価する。</p> <p>【フィードバック】</p> <p>定期試験においては個別での質疑応答の時間設定もしくは、解答の掲示を行う。</p> <p>レポート等課題に関しては、授業の際に概要を学生全体に伝え、個別対応はオフィスアワーでの対応とする。</p>
テキスト	<p>中野綾美編．小児の発達と看護 第7版．メディカ出版．2023</p> <p>中村友彦他編．小児の疾患と看護 第3版．メディカ出版．2023</p> <p>山元恵子監修．写真でわかる小児看護技術アドバンス 第2版．インターメディカ．2022</p>
参考文献	<p>適宜紹介する書籍、文献</p> <p>講義中に配布される印刷教材、指定DVD</p>
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>松岡聖美：看護師としての病院勤務から、事例を交え学習者の理解を助けるような授業を展開していく</p> <p>二宮球美：看護師としての病院勤務から、事例を交え学習者の理解を助けるような授業を展開していく</p> <p>非常勤講師 鎌田晃子：小児看護専門看護師としての病院勤務経験から、経験事例を含め院内での専門看護師について教授する</p>

詳細情報

<p>アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施</p>	<p>ペアワーク・グループワーク・反転授業等、アクティブラーニングを複数取り入れている。楽しく学ぶことができる分、能動的な学習を必要とするため、指定された課題は必ず行うこと。 ICT活用能力の向上のため、office365を適宜利用していく。すぐに使用できるように、自分に与えられたID等の確認をしておくこと。 学習の達成度を学生自身で確認できるように、office365のFormsによる小テストを実施する。成績評価の対象ではないが、小テスト結果で不足していると思われる学習を各自補填し、定期テストへの準備とすること。</p>
------------------------------------	--

授業計画

授業計画	
<p>授業の目的を達成するために必要とされる知識を教授し、思考および知識の活用・応用のために必要とされる経験・課題を計画的に配置する。それ以外の事前事後学習については、下記【課題】を参照すること。</p>	
<p>小児看護学概論としての目的だけでなく、社会人基礎力として求められる、前に踏み出す自主性・多様な人と目標に向けて協力できるチームワーク力・考え抜き課題を解決する力を涵養するため、授業内に複数のアクティブラーニングを取り入れている。また、ICT活用能力の向上のため、office365を適宜利用していく。</p>	
<p>【課題】</p>	
<p>課題を課されていない場合でも、最低以下の事前事後学習を行うこと。</p>	
<p>1.事前学習：テキスト指定ページを読む、関係する解剖生理等で不明確な者はその復習、テキスト上の動画コンテンツの視聴、講義資料を読む（60分以上）</p>	
<p>2.事後学習：事後配布資料・事後学習用コンテンツの活用、関連DVD視聴、引用文献の確認、知識の定着、関連の国家試験過去問題へのチャレンジなど（60分以上）</p>	
<p>* 別途事前・事後課題及び課題レポートがCampus squareに提示されるため注意すること(計16～30時間)</p>	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	子どもとは、子どもをとりまく社会、child and family centered care（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	ペアワーク 事後課題（～6/24）
2	子どもに関する法律・制度・保健施策（松岡）	Campussquareに補助教材配布予定	ペアワーク office365のformsを用いたテスト
3	小児看護で用いられる概念理論（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	事前学習（～6/29）を基にした反転授業
4	成長発達の原則、乳児期の子どもの成長発達（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	事前学習（～7/6）を基にした反転授業
5	幼児期の子どもの成長発達（二宮）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	
6	学童期・思春期の子どもの成長発達、AYA世代の特徴（二宮）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	office365のformsを用いたテスト
7	【特別講義】小児専門看護師の病院・地域での役割（鍛田）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	事後レポート課題（～8/11）
8	虐待・災害を受けた子どもとその家族への看護（二宮） 定期試験（40分）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	前半40分講義、その後40分を定期試験とする

基本情報

科目名	小児看護学援助論
時間割コード	0126311901
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	金 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、牛ノ浜 奈央、二宮 球美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>1学期に履修した小児看護学概論での学びをベースに、様々な状況にある子どもとその家族に対する発達段階に応じた援助、子どもの権利を尊重した援助について理解できることを目指す。</p> <p>具体的には、以下の目標に沿って授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 様々な状況にある子どもとその家族の特徴を記述できる2. 子どもによくみられる疾患、治療、療養生活の特徴を記述できる3. 様々な状況にある子どもの権利を尊重した看護について自分の言葉で記述できる4. 子どもをケアする多職種連携について考察できる <p>以下のディプロマ・ポリシーに対応している科目である。</p> <ol style="list-style-type: none">2保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し、課題解決の糸口を探求できる能力3多様な場において、様々な健康段階にある人と家族に対して個別性のある援助ができる能力4保健医療福祉チームの一員として協働し連携できる能力
履修上の注意事項	<p>1学期の小児看護学概論同様に、カリキュラムポリシーに則り、共通科目・共通専門科目・専門基礎分野・基礎看護学系の専門分野科目を基盤にし、さらに小児看護学概論で学んだ小児看護の視点で子どもとその家族への援助について学習する。</p> <p>受講者の理解を促すため、臨場感のある事例を提示し授業を展開する。漫然と講義を「聞く」のではなく、実習でどのように行動するか常に考えながら授業に「参加」することを期待する。</p> <p>学習の達成度を学生自身で確認できるように、Formsによる小テストを実施する。評価の対象ではないが、小テスト結果で不足していると思われる学習を各自補填し、定期テストへの準備とすること。</p>
評価方法	<p>単位取得資格:2/3以上の出席が前提</p> <p>*30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす</p> <p>*30分以内の遅刻・早退の合計3回を欠席1回とする</p> <ol style="list-style-type: none">1. 定期試験 80%2. 課題内容 20% <p>定期試験では、小テスト内容だけでなく講義内容、課題内容、テキスト・副教材内容から出題する。</p> <p>課題は提出しただけでは評価対象とはせず、提出内容により評価する。</p> <p>【フィードバック】</p> <p>定期試験においては個別での質疑応答の時間設定もしくは、解答の掲示を行う。</p> <p>レポート等課題に関しては、授業の際に概要を学生全体に伝え、個別対応はオフィスアワーでの対応とする。</p>
テキスト	<p>中野綾美編．小児の発達と看護 第7版．メディカ出版．2023</p> <p>中村友彦他編．小児の疾患と看護 第3版．メディカ出版．2023</p> <p>山元恵子監修．写真でわかる小児看護技術アドバンス 第2版．インターメディカ．2022</p>
参考文献	授業内の配布資料
実務経験のある教員による授業の有無	有

詳細情報

実務経験・実務経験を活かした教育内容	松岡聖美：看護師としての病院勤務から、適宜事例を取り入れ、学習者の理解を促す授業を展開していく 二宮球美：看護師としての病院勤務から、適宜事例を取り入れ、学習者の理解を促す授業を展開していく 非常勤講師 牛ノ浜奈央：小児看護専門看護師としての病院勤務から、悪性腫瘍の子どもと家族への看護について実践事例を豊富に取り入れた授業を行う
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	ペアワーク、グループワークと発表による協働学習等、アクティブラーニングを展開する。反転授業等を取り入れるため、事前の自己学習が不可欠となる。成績評価に関しては、事後学習の内容を加味することで個人の努力を反映する。 学習の達成度を学生自身で確認できるように、Formsによる小テストを実施する。また、課題の提出はすべてcampus square上とし、PCでの文書作成、プレゼンテーション資料作成の技能の向上を目指す。

授業計画

授業計画	
授業の目的を達成するために必要とされる知識を教授し、思考および知識の活用・応用のために必要とされる経験・課題を計画的に配置する。それ以外の事前事後学習については、下記【課題】を参照すること。 資料掲示する”オリエンテーション資料”に課題等の詳細を説明する。熟読して講義に臨むこと。	
【課題】 課題を課されていない場合でも、最低以下の事前事後学習を行うこと。	
1.事前学習：備考欄に記載の疾患に関するテキストページを読む、関係する解剖生理等で不明確な者はその復習、テキスト上の動画コンテンツの視聴、講義資料を読むなど(90分)	
2.事後学習：事後配布資料・事後学習用コンテンツの活用、関連DVD視聴、引用文献の確認、知識の定着、関連の国家試験過去問題へのチャレンジなど(90分)	
*別途事前・事後課題及び課題レポートがCampus squareに提示されるため注意すること(計30時間程度)	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、および体動制限のある子どもへの看護(松岡)		プレパレーション・ディストラクション・骨折・先天性股関節脱臼・若年性特発性関節炎
2	子どもに多い事故と看護(松岡)	事後レポート	グループワーク 不慮の事故・誤飲・誤嚥・熱傷・溺水・鼻出血
3	症状別看護(けいれん・ショック・疼痛・皮膚症状)(松岡)	formsテスト	熱性けいれん・感染症・腸重積
4	症状別看護(発熱・咳嗽・呼吸困難)(松岡)		川崎病・喘息・RS・ヒトメタウイルス
5	症状別看護(嘔吐・下痢・脱水・浮腫)(松岡)		幽門狭窄症・ロタウイルス・アレルギー性紫斑病
6	検査を受ける子どもとその家族への看護(松岡)	formsテスト	採尿(膀胱尿管逆流症)・腰椎穿刺(髄膜炎)・骨髄穿刺(急性リンパ性白血病)・X-P・脳波・MRI・CT・各種エコー
7	周手術期の子どもとその家族への看護(二宮)		口蓋裂・ヒルシュスプルング病・鎖肛・ファロー四徴症
8	救急処置の必要な子どもとその家族への看護(二宮)		溺水・熱傷・外傷・虐待・災害
9	慢性疾患を持つ子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	1型糖尿病・ネフローゼ・SLE
10	先天的な健康問題をもつ子どもとその家族への看護(二宮)		21トリソミー(ダウン症候群)・13トリソミー・18トリソミー・クラインフェルター症候群・筋ジストロフィー・先天性胆道閉鎖症・脳性まひ・発達障害
11	障害のある子どもと家族の看護(二宮)		同上

授業計画

授業の目的を達成するために必要とされる知識を教授し、思考および知識の活用・応用のために必要とされる経験・課題を計画的に配置する。それ以外の事前事後学習については、下記【課題】を参照すること。

資料掲示する”オリエンテーション資料”に課題等の詳細を説明する。熟読して講義に臨むこと。

【課題】

課題を課されていない場合でも、最低以下の事前事後学習を行うこと。

- 1.事前学習：備考欄に記載の疾患に関するテキストページを読む、関係する解剖生理等で不明確な者はその復習、テキスト上の動画コンテンツの視聴、講義資料を読むなど(90分)
- 2.事後学習：事後配布資料・事後学習用コンテンツの活用、関連DVD視聴、引用文献の確認、知識の定着、関連の国家試験過去問題へのチャレンジなど(90分)

*別途事前・事後課題及び課題レポートがCampus squareに提示されるため注意すること(計30時間程度)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
12	悪性新生物のある子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	固形腫瘍・血液腫瘍・緩和ケア・終末期ケア
13	【特別講義】専門看護師による悪性新生物・終末期にある子どもとその家族への看護(牛之浜)	事後レポート	上記に加えて看護倫理
14	子どもの事例での倫理的課題の検討(松岡)		精巣固定術
15	病気を抱えながら地域に暮らす子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	喘息・アトピー性皮膚炎・てんかん・医療的ケア児

基本情報

科目名	成人看護学概論
時間割コード	0126311101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名	
杉野 由起子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の健康発達の特徴や成人期固有の健康問題について理解を深める 2. 様々な健康障害の特徴や疾病段階にある対象者が健康に生活するための看護を考える 3. 成人期にある対象の健康状態に応じた看護実践に有用な理論や概念を理解する <p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の心身の変化と発達課題を理解する 2. 現代の家族像・労働環境・日常生活の変化のなかで生きる成人の特徴を理解する 3. 成人期にある人の健康に与える要因と主な健康障害について理解する 4. 成人期にある人との関係構築や健康状態への適応を促す理論や概念を理解する 5. 成人期の健康の保持・増進、疾病予防に向けた看護を理解する 6. 急性状態・慢性的経過や人生の最終段階にある対象の看護と看護実践の環境を理解する
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない専門用語は、1年次に履修した解剖生理学や基礎看護学等の知識を復習または確認する(事前学修60分) 2. 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する(事後学修60分) 3. この授業は3年次の成人看護学実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験(100%)で評価する</p> <p>課題や質問に対するフィードバックは適宜講義のなかで解説する</p>
テキスト	林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵: 看護学テキストNICE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える, 南江堂, 改訂第4版, 2022, 東京
参考文献	適宜授業で紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	杉野由起子: 看護師として急性期病院での治療看護に関する経験と、急性・重症患者看護専門看護師としての経験をもとに、国内外の成人領域全体の健康問題と課題、看護理論やモデルを用いた看護支援の事例を交えながら授業を展開する
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	第1回 ガイダンス 成人期の特徴, 成人をとりまく今日の状況	教科書の第 章・第 章を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	第2回 成人期にある人の健康,成人保健の動向	教科書の第 章を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
3	第3回 成人期にある人を看護するための基本的な考え方	教科書の第 章を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
4	第4回 健康状態に応じた看護、行動変容	教科書の第 章(P240～256)を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
5	第5回 健康状態が急激に変化し急性状態にある人の看護、ストレスコーピング	教科書の第 章(P257～266)を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
6	第6回 生活機能障害のある人への看護、セルフケア、症状マネジメントモデル	教科書の第 章(P267～275)を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
7	第7回 慢性的な経過を辿る健康障害を有する人への看護、危機・障害受容モデル	教科書の第 章(P276～287)を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	
8	第8回 人生の最終段階にある人への看護、専門職間の連携と協働	教科書の第 章を読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分) その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する(事後学習60分)	

基本情報

科目名	成人看護学援助論（急性期療養支援）
時間割コード	0126311201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 3, 木 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、森 雄太、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期、疾患の急性発症・急性増悪など、生体侵襲を受けた対象を全人的に理解し、回復を促進する看護を理解する 2. 生活を再構築する対象者と家族の心理・社会的側面を理解し、支援に関わる多職種や看護師の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体侵襲を受けた対象の病状と治療・回復過程における看護師の役割を説明できる 2. 疾患の急性発症や増悪にある対象への療養支援と患者・家族教育を説明できる 3. 周術期の看護過程と生体侵襲を受けた対象の回復過程を説明できる 4. クリティカルケア看護の対象となる対象の特性と家族を含めた療養支援を説明できる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、1年次に履修した解剖生理学や基礎看護学等の知識を復習または確認する（事前学修120分） 2. 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） 3. この授業は3年次の成人看護学実習（急性期療養支援）および4年次看護統合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験(100%)で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の講義のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 2. 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護 2023改訂第4版 南江堂 3. 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア 2023改訂第4版 南江堂 4. 成人看護学 成人看護技術「Web動画付」2022年改訂第3版 南江堂
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>杉野由起子：看護師として急性期領域での看護、急性・重症患者看護の専門看護師としての経験をもとに、急性期から回復期の患者と家族への直接ケア・教育、最新のケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p> <p>森 雄太：急性期領域での看護、とくに外科領域に関する経験をもとに急性期から回復期の患者と家族への直接ケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p> <p>西森 直美：看護師として急性期領域とくに外科領域の経験、訪問看護での経験をもとに、急性期から回復期、地域在宅ケアへ向けた教育など、退院後を見据えたケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス 急性期看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	周術期看護 手術前期から手術期の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
3	周術期看護 手術後期看護と退院支援	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	肺葉切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	人工股関節置換術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	大腸/胃切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	肝切除術/胆嚢摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	開頭脳腫瘍摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	乳房切除術/子宮摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	冠動脈バイパス術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	心不全の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
15	集中治療を受ける対象の回復を促進する看護援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	成人看護学援助論（慢性期療養支援）
時間割コード	0126311301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 3, 木 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	清永 麻子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、齊藤 圭子、西森 直美、清永 麻子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患や障害をもちながら生活する人とその家族への援助・支援を理解する 慢性疾患を有する人と家族のセルフマネジメントを促進する看護援助、教育支援・方法について理解する 慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するための社会資源の活用や専門職の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 主な治療方法と治療を受ける人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる 慢性疾患や障害をもちながら生活する人とその家族への具体的な援助方法を理解し説明することができる 疾患の急性増悪を予防するための療養支援と患者・家族教育を説明できる 慢性疾患群における疾病管理の現状と課題を理解し説明することができる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、解剖生理学や成人看護学援助論（急性期療養支援）の知識とつなげ、復習または確認する（事前学修120分） 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） この授業は3年次の成人看護学実習（慢性期療養支援）および4年次看護統合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験（100%）で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 成人看護学 慢性期看護 2023年改訂 第4版 南江堂 成人看護学成人看護技術「Web動画付」2022年改訂 第3版 南江堂 看護学専門分野教科書シリーズ 成人がん看護学 2023年初版第1刷 理工図書
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>清永麻子：看護師として病院勤務での経験から、慢性疾患療養支援について、医療機関から退院支援までを包括し、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>齊藤圭子：看護師として病院勤務での経験から、慢性疾患の急性増悪の予防や生活指導、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>西森直美：看護師として病院勤務、訪問看護の経験から慢性疾患を抱える患者の今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	授業で得た知識をもとに、テーマを設け小グループでのグループワークやディスカッションを行う

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス（清永） 慢性期看護概論（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	慢性疾患を有する人とその家族への援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
3	神経系の障害を有する人とその家族の看護（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	運動機能障害を有する人とその家族の看護（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	循環器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	ペースメーカーを装着している患者の援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	インスリン療法・内分泌療法を受ける患者の援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	腎障害を有する人とその家族への援助（西森）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	消化器系の障害を有する人とその家族への援助（西森）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	がん薬物療法を受ける人とその家族の理解と看護援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
15	慢性疾患の管理の現状と課題：疾病管理について（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	老年看護学概論
時間割コード	0126311501
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	月 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	生野 繁子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーとの関連 1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの中で老年者をとらえ、老年者の特徴とその健康生活について理解できる。 2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。 3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。 4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。 5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回講義時に老年看護学全体の構造を説明するので、学修計画を立てて置くこと。 ・ 具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。 ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読(約60分)しておくこと。 ・ シラバス内容に関するテキスト部分を事前学習(約60分)し、授業に参加すること。 ・ 生野担当時に数回ミニテスト(評価には加味しない)を実施する。必ず復習(約90分)すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末定期試験(筆記)100%で評価する。
テキスト	「高齢者の健康と障害」老年看護学 第7版 堀内ふき編メディカ出版
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新版 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メヂカルフレンド社 2. 最新版 新体系看護学全書「老年看護技術」メヂカルフレンド社 3. 最新版 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院 4. 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>生野 看護師として病院勤務経験 山本 看護師・保健師として病院勤務経験 北原 看護師として病院勤務経験</p> <p>病棟看護師としての勤務経験と、実習指導における高齢者施設でのケアに対する見解を含めて、学生に教示する。また、介護保険の認定審査委員(生野・山本)・介護保険苦情処理委員(生野)の実績を踏まえ、院生が思考を発展できるように教示する。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回、リアクションペーパー等を活用し、フィードバックを行っている。

授業計画

授業計画

看護学科の老年看護学領域担当者3名が担当。7回半が講義、8回後半が単位修得試験。感染状況等で回の内容を入れ替えることがあります。

ディプロマ・ポリシー1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4・5の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。

事前事後学修として各回のキーワードに該当するテキスト部分を読んでおき、講義後は復習すること。(事前60分事後60分程度必要)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス・高齢者とは・高齢者の特徴と理解・高齢者の生活と家族(生野)	ライフサイクル・加齢・老化・老年期の発達課題・サクセスフルエイジング・ノーマライゼーション・スピリチュアリティ・家族機能の変化・介護者の健康・介護力評価・高齢者の家族への支援	左のキーワードを参考に事前にテキストを読んでおき、講義後は復習すること
2	高齢者にとっての健康・機能と評価・QOL(山本)	高齢者総合機能評価・ADL・IADL・障害と認知症の高齢者の日常生活自立度・要介護・要支援の認定と区分・リロケーション	同上
3	加齢に伴う身体機能の変化(生野)	高齢者の健康と疾病の特徴・恒常性(防衛力、予備力、適応力、回復力)の維持と各器官の機能の低下	同上
4	認知・心理・社会的変化と健康への影響・高齢者における性(生野)	知能や能力の変化・役割と社会活動の変化・余暇活動と生きがい・住宅環境・就労等の状況・高齢者の性機能の特徴	同上
5	老年看護の倫理・自己決定・虐待と身体拘束・成年後見制度(北原)	スティグマ・エイジズム・高齢者虐待・アドボカシー・身体拘束・高齢者の医療の確保に関する法律・成年後見制度・日常生活自立支援事業	同上
6	介護保険施設入所及びサービス利用高齢者の暮らしと看護(生野)	介護保険制度全般・地域包括ケアシステム・入所・地域密着型サービス・在宅サービスの種類と特徴・福祉介護用品の活用	同上
7	入院・長期入院・入所の高齢者の暮らしと看護・多職種連携チームアプローチ(山本)	医療施設の種類と特徴・入院・長期入院・入所高齢者のアセスメントと生活上の課題と援助・介護職員の専門性と役割の共有	同上
8	老年看護学概論のまとめ(生野)(45分)・評価テスト(生野・山本・北原)(45分)		1~7回の資料を整理し復習してまとめに望むこと。

基本情報

科目名	老年看護学援助論
時間割コード	0126311601
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	月 2
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	山本 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	高齢者に多くみられる症状や疾患の特徴を理解し、個別性を踏まえたアセスメントを行い健康課題を導き出すことができる。また、様々な健康状態あるいは多様な生活の場において、多職種と協働し、高齢者とその家族を支える看護を考えることができる。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時には着席すること。授業開始後30分を過ぎたら遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とします。 ・毎回、小レポートを書いてもらいそれと携帯登録をもって出席とします。 ・事前学習：受講前に教科書を熟読し、疑問点は調べておくこと(2時間) ・事後学習：講義や演習を踏まえて、要点を自分でまとめ理解を深めること(2時間)
評価方法	定期試験100% フィードバックとして試験の回答のみを後日公開する
テキスト	堀内ふぎ、諏訪さゆり、山本恵子編集．ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践．メディカ出版．2023年
参考文献	適宜、講義の中で紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	山本恵子：看護師・保健師として病院勤務経験を活かし、学生がイメージしやすい講義を展開する 生野繁子：看護師として病院勤務経験を活かし、学生がイメージしやすい講義を展開する 北原崇靖：看護師として病院勤務経験を活かし、学生がイメージしやすい講義を展開する
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	ロールプレイなどを活用し講義を展開する。毎回、リアクションペーパーなどを用い学習のフィードバックを行う

授業計画

授業計画
授業概要を熟読し、各講義に備えてください。15回の予定は以下の通りです。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	高齢者の健康とその特徴(山本)		
2	老年看護における理論と倫理(山本)		
3	外来から入退院における高齢者の看護(山本)		
4	治療・リハビリテーションを受ける高齢者の看護(山本)		
5	病期別に見た高齢者の看護：急性期から慢性期(山本)		
6	病期別に見た高齢者の看護：終末期(北原)		
7	認知症の治療(山本)		
8	認知機能が低下した高齢者の看護(山本)		
9	高齢者の食事と排泄(生野)		
10	高齢者の活動と休息・性(生野)		
11	高齢者に特有な疾患・障害：運動器疾患(山本)		

授業計画

授業概要を熟読し、各講義に備えてください。15回の予定は以下の通りです。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	高齢者に特有な疾患・障害：感染症・皮膚疾患（山本）		
13	高齢者に特有な疾患・障害：呼吸器疾患（北原）		
14	高齢者に特有な疾患・障害：その他（北原）		
15	災害における高齢者支援（山本）		

基本情報

科目名	関係法規
時間割コード	0126300401
ナンバリングコード	N13011-L-12
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	寺本 奈津樹
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名	
寺本 奈津樹	

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>本科目では、現行医事法制を基盤とし、医事法の意義や基本原則、基本理念をおさえた上で、看護師の法的地位や責任、さらにチーム医療や福祉との関わりなど多職種との連携が求められている現代医療において、看護師の専門職としての役割や責任について法的観点から学ぶ。あわせて、現行医療制度や社会保障制度の現状と課題を理解することを目的とする。</p> <p>学修者は、現行医療制度や社会保障制度、現行医事法制に関する知識を身につけ、医事法の意義や基本原則を踏まえ、法的観点から看護師の法的地位や責任、多職種連携における看護師の役割と責任、看護師の専門性について深く理解できるようになる。また、医療や福祉の現状と課題について説明できるようになる。</p>
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 理解度を確認するために、授業内で小テストを実施します。実施日や範囲は事前に連絡します。 テキストやレジュメには、法律用語が多く出てきます。まずは、指定されたテキストの範囲を最後まで読み進めてみましょう。わからない語句や用語については、印をつけ、予め調べておくことを期待します。授業後には、レジュメを使いながらテキストを読み直して、内容を整理しましょう。 わからないことは、積極的に質問してください。 授業の進行は、理解度に応じて変更する場合がありますが、その際には事前に連絡します。
評価方法	<p>授業に関する小レポート15%、小テスト15%、定期試験70%で評価する。</p> <p>フィードバックとして、授業に関する小レポートや小テストについてコメントする。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 甲斐克則編『ブリッジブック医事法〔第2版〕』（信山社、2018年） 野崎和義監修＝ミネルヴァ書房編集部編『ミネルヴァ社会福祉六法2024〔令和6年版〕』（ミネルヴァ書房、2024年）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 望月聡一郎『看護学生のためのわかりやすい法律・制度』（中央法規、2023年） 手嶋豊『医事法入門〔第6版〕』（有斐閣、2022年） 米村滋人『医事法講義〔第2版〕』（日本評論社、2023年） その他、授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングとして、適宜ディスカッションを行う。積極的に参加することを期待する。 毎回Formsを用いて理解度を確認しながら授業を進める。

授業計画

授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> 授業は、レジュメとテキストをもとに進める。 授業で使用するレジュメは、事前にCampusSquareにアップロードする。 本科目では各法律の条文を参照しながら授業を行うため、『ミネルヴァ社会福祉六法2024〔令和6年版〕』を持ってくること。 	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

- ・授業は、レジュメとテキストをもとに進める。
- ・授業で使用するレジュメは、事前にCampusSquareにアップロードする。
- ・本科目では各法律の条文を参照しながら授業を行うため、『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版] 』を持ってくること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション：授業の進め方、注意事項の説明 イントロダクション：医事法の意義と基本原理	事前：レジュメ（第1回）、テキスト（第1講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第1講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	授業の進め方、注意事項、授業に関する小レポートの提出、小テスト、評価について詳しく説明します。
2	医療制度概論：医療の提供、医療の担い手	事前：レジュメ（第2回）、テキスト（第2講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第2講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
3	医療制度概論：医療制度と行政規制	事前：レジュメ（第3回）を読み、テキスト（第2講）の「CASE」を復習する。わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第2講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
4	医療行為と刑事規制：医師と医業、医師以外の医療従事者の行為、看護師の役割と責務	事前：レジュメ（第4回）、テキスト（第3講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第3講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
5	医療行為と刑事規制：医療の担い手と関係法規、刑事規制の対象、規制の課題	事前：レジュメ（第5回）を読み、テキスト（第3講）の「CASE」を復習する。わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第3講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
6	看護師として働く：労働法概説、雇用形態の多様化、看護師等の人材確保	事前：レジュメ（第6回）を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメ（第6回）を読み直し、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	

授業計画

- ・授業は、レジュメとテキストをもとに進める。
- ・授業で使用するレジュメは、事前にCampusSquareにアップロードする。
- ・本科目では各法律の条文を参照しながら授業を行うため、『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版] 』を持ってくること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	治療とインフォームド・コンセント：承諾原則、説明原則、自己決定権、意思決定	事前：レジュメ（第7回）、テキスト（第4講・第6講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第4講・第6講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
8	治療と医療情報：守秘義務、個人情報保護、被害者の承諾、患者の黙示の同意、医療情報の第三者提供	事前：レジュメ（第8回）、テキスト（第5講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第5講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
9	医療事故・医療過誤：医療紛争・医療訴訟、民事責任、注意義務	事前：レジュメ（第9回）、テキスト（第8講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第8講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
10	医療事故・医療過誤：刑法上の責任、信頼の原則、医療事故と届出義務・被害者救済	事前：レジュメ（第10回）、テキスト（第9講・第10講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第9講・第10講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
11	終末期医療：治療行為の中止、患者の意思表明、自己決定、成年後見制度	事前：レジュメ（第11回）、テキスト（第13講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第13講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
12	小児医療・精神科医療：子どもの同意能力と親権、医療ネグレクト、精神科医療の歴史と特徴、権利擁護	事前：レジュメ（第12回）、テキスト（第20講・第21講・第22講）の「CASE」を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメを使いながら、テキスト（第20講・第21講・第22講）を読み、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	

授業計画

- ・授業は、レジュメとテキストをもとに進める。
- ・授業で使用するレジュメは、事前にCampusSquareにアップロードする。
- ・本科目では各法律の条文を参照しながら授業を行うため、『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』を持ってくること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	医療と福祉：社会保障制度概説、医療保険、介護保険	事前：レジュメ（第13回）を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメ（第13回）を読み直し、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
14	チーム医療：看護師の役割と責務、チーム医療に関する諸問題	事前：レジュメ（第14回）を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメ（第14回）を読み直し、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	
15	人間の尊厳と医療：身体拘束の問題、感染症対策と課題、人権保障	事前：レジュメ（第15回）を読み、わからない語句や用語については意味を調べておく。（2時間） 事後：レジュメ（第15回）を読み直し、授業内容を整理する。条文を再度確認する。授業に関する小レポートや小テストのコメントを読み、授業内容の復習をする。（2時間）	

基本情報

科目名	統計学
時間割コード	0126130101
ナンバリングコード	N11033-L-01
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	金 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	森 信之
科目区分	共通科目 科学的思考の基盤
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
森 信之

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会調査やアンケートなどで得られたデータは、そのままでは役に立たない。データを客観的、論理的に分析することが必要になってくる。本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が大切である。特に、出てきた専門用語は、何を意味しているのか、その内容をしっかりと把握しておくこと。わからないことは、わからないまま済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。
評価方法	筆記試験の結果のみで判断する。再試験は行なう。
テキスト	テキストは用いず、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	講義中に、適宜、紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるとよい。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	反転講義型のアクティブラーニングを行なう。 配布した資料で、事前に専門用語や講義内容について学び、実際の講義では内容の確認を行った後に演習を行なう。初回の講義において、進め方についての案内をする。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	質的データと度数分布表・ヒストグラム	事前：事前配布資料を読んで予習する(2時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(2時間)	
2	量的データと代表値、分散	事前：事前配布資料を読んで予習する(2時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(2時間)	
3	正規分布、t分布、 χ^2 乗分布とその性質	事前：事前配布資料を読んで予習する(2時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(2時間)	
4	母平均・母分散・母比率の推定	事前：事前配布資料を読んで予習する(2時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(2時間)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
5	検定の考え方, 第1種・第2種の過誤	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
6	母平均の検定, 対応のある2つの母平均の差の検定	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
7	対応のない2つの母平均の差の検定	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
8	ノンパラメトリック検定 (順位和検定)	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
9	ノンパラメトリック検定 (符号検定)	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
10	ノンパラメトリック検定 (符号付き順位和検定)	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
11	母比率の検定 (対応のある場合, ない場合)	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
12	適合度の検定	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
13	独立性の検定, マクネマー検定	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
14	相関関係と相関係数	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	
15	回帰分析	事前: 事前配布資料を読んで予習する (2時間) 事後: 復習のための演習レポートを提出する (2時間)	

基本情報

科目名	地域・在宅看護学概論
時間割コード	0126310701
ナンバリングコード	N13021-L-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 1
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	中川 武子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
坂口 里美、中川 武子、田中 康子、清永 麻子、日田 ひとみ

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業目的】 健康に障がいを抱える対象者の健康課題を明らかにしその解決に必要な基礎的能力を養う。 【到達目標】 1) 地域の人々の暮らしを支える看護の概観を理解できる。 2) 地域の人々の暮らしを支える看護を歴史を通して理解できる。 3) 地域でくらす人々とそれを支える看護実践の場が理解できる。 4) 暮らしを支える看護の実践を理解できる。 5) 暮らしを支える看護に関わるシステムを理解できる。 6) チーム医療及び他職種との協働における看護職の役割を理解できる。
履修上の注意事項	1) 講義初日に授業展開日程表を配布するので、日程表に沿った学習を進めること。 2) 事前学習としてテキストの該当範囲を読み、不明な用語を調べておくこと(2時間)。 3) 事後学習として講義内容と配布資料をまとめ整理しておくこと(2時間)
評価方法	定期試験 50% レポート 50%(外部講師による講義レポート10%×2回、課題レポート30%)
テキスト	系統別看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 医学書院 2024年版
参考文献	国民衛生の動向 2024/2025 一般財団法人厚生労働統計局 2024年度版
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	中川:保健師として保健センター勤務経験、看護師として病院勤務経験 坂口:保健師として保健センター勤務経験、看護師として病院勤務経験 田中:看護師として病院勤務経験 巖:看護師として病院勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	適宜、グループワークやディスカッションを行います。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	人々暮らしの理解(中川)	事前:該当部分のテキストを読んでおくこと(2時間) 事後:講義資料を踏まえ、まとめること(2時間)	オリエンテーション第1章
2	暮らしの基盤としての地域の理解(中川)	事前:該当部分のテキストを読んでおくこと(2時間) 事後:講義資料を踏まえ、まとめること(2時間)	第2章

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	地域の人々を支える看護の理念と目的： ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア（中川）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第3・4章
4	地域の人々のくらしを支える看護の歴史（坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
5	地域の人々を支える看護の対象（田中）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第3章
6	地域社会の中にある暮らしを支える資源（坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第2章
7	くらしを支える看護の基本（中川）：看護職の活動の場	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
8	地域でくらす人々を支える看護実践の場：地域・在宅看護	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
9	地域でくらす人々を支える看護実践の場・行政機関（中川）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
10	地域でくらす人々を支える看護実践の場・行政機関（中川・特別講師）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
11	地域でくらす人々を支える看護実践の場・在宅に関する機関（未定）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第5章
12	地域でくらす人々を支える看護実践の場・在宅に関する機関（特別講師・中川・坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第5章
13	地域・在宅看護にかかわる制度：介護保険制度・医療保険制度（坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
14	地域・在宅看護にかかわる制度：地域保健にかかわる法制度他（坂口）：	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
15	地域・在宅看護の総括（中川・坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第1～6章

基本情報

科目名	地域ケアシステム論
時間割コード	0126310801
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	水 1
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	田中 康子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
田中 康子、清永 麻子、日田 ひとみ

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかで暮らす人々の健康と暮らしを支えるための地域・在宅看護の役割について理解できる。 2. 地域のなかで暮らす人々の暮らしの環境を整えるために必要な看護の知識・姿勢を理解できる。 3. 地域・在宅看護の提供の場と多職種における連携について理解できる。 4. 地域のなかで暮らす人々の健康と暮らしを支えるための社会資源を理解できる。 <p>【個別到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかで暮らす人々の暮らしを支える看護の基盤となる考え方の視点を説明できる。 2. 地域の人々の暮らしを支えるための環境を整える看護を知り、地域・在宅看護に求められる知識・姿勢を説明できる。 3. 地域・在宅看護を実践する場と実践するにあたり多職種連携や協働について説明できる。 4. 地域で暮らす人々の生活を支える社会保障制度について説明できる。 5. 地域・在宅看護の対象となる人々が暮らす地域の特徴を知り、地域社会の課題を説明できる。
履修上の注意事項	<p>【事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む(1時間)。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う(1時間)。 <p>【履修上の注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義の出席について、以下の1)から3)のすべてを実施することで出席とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 携帯電話等での登録：各回の講義で担当教員が口頭で伝えるキーワードの登録 2) 感想カードの提出：各回の講義を受講した直後に、教室内の指定された場所に提出する。 3) 講義開始直後から終了するまでの時間内において、教室内の座席に着席する。 座席に着席しているかの確認を行う場合もある。 2. 原則、座席指定ではない。授業の状況(授業態度：私語がみられる他)にて、座席指定に変更する可能性がある。また、感染予防対策として座席指定の場合もある。 3. 授業方法として、グループワーク等で実施する可能性がある。その際には、講義中での口頭による説明やCAMPUS SQUARE 掲示で連絡を行う。 <p>【遅刻および欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻：授業開始時間から20分未満に教室に入室した場合。 ・欠席：授業開始時間20分以降に教室に入室した場合。また、授業時間内において教室に入室しなかった場合。 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィードバック：講義の感想カードの内容について、次回担当講義に口頭で説明、CAMPUS SQUARE、などで行う。 2. 小テスト：いずれかの回で実施する予定である。担当教員から口頭もしくはCAMPUS SQUARE で事前に連絡を行う。終了後に口頭等で解説を行う。

詳細情報

評価方法	<p>【本科目における評価】 定期試験と小テストを合計(100%)した60%以上である。学生便覧の成績評価におけるA、B、Cのいずれかの評価で合格の判定とする。</p> <p>【評価の内訳について】 ・定期試験：70% 配点：担当教員から口頭もしくはCAMPUSSQUAREで連絡を行う。 ・小テスト：30% 配点：担当教員から口頭もしくはCAMPUSSQUAREで連絡を行う。</p>
テキスト	<p>主に 1) を使用</p> <p>1) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践，医学書院，2024。 2) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤，医学書院，2023。</p>
参考文献	<p>・テキストや講義資料に提示する文献 ・適宜提示する</p>
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>田中 康子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>清永 麻子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>日田 ひとみ：看護師として病院と訪問看護ステーションの双方の勤務経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>松崎 とよ子（特別講師）：看護師として病院勤務や災害支援の経験から、地域における災害支援看護師としての役割、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力が身につけられるよう授業を展開していく。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>授業内でディスカッション等とおして、学びを深める。 また、学生からの質問等をCAMPUSSQUAREに掲示する場合もある。</p>

授業計画

授業計画	
【授業計画】授業（講義第1回～第8回・定期試験：第8回の時間内）	
【授業概要】	
<p>地域・在宅看護学概論で学習した地域のなかで暮らす人々の健康や生活の支援について理解したうえで、本科目を学習する。</p> <p>地域・在宅看護の目的を学び、地域のなかで生活する人々や家族（介護者）の現状、地域・在宅看護にかかわる社会資源や地域の人々の生活の支援にかかわる医療や介護の政策から、地域・在宅看護の特性および役割について理解する。</p> <p>地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の基本となるものを学習する。</p>	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス・地域在宅看護の役割・地域の人々の暮らしを支える看護実践に必要な視点（心がけ） 田中・日田	<p>1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。</p> <p>2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。</p> <p>3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。</p>	ガイダンス（予定）：講義の展開等の説明

授業計画

【授業計画】授業（講義第1回～第8回・定期試験：第8回の時間内）

【授業概要】

地域・在宅看護学概論で学習した地域のなかで暮らす人々の健康や生活の支援について理解したうえで、本科目を学習する。
 地域・在宅看護の目的を学び、地域のなかで生活する人々や家族（介護者）の現状、地域・在宅看護にかかわる社会資源や地域の人々の生活の支援にかかわる医療や介護の政策から、地域・在宅看護の特性および役割について理解する。
 地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の基本となるものを学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	地域の人びとの暮らしを支える看護：家族を支援する（田中）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	
3	地域の多様な人々の暮らしを支える地域における多職種、関連機関（清永）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	
4	地域の多様な人々の暮らしを支える社会資源、地域の人びと（田中）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	
5	地域の人々の暮らしを支える看護暮らしにおける災害対策（松崎）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	日程変更の可能性あり
6	地域の人々の暮らしを支える社会保障制度：介護保険制度・医療保険制度、他・医療提供体制（清永）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	

授業計画

【授業計画】授業（講義第1回～第8回・定期試験：第8回の時間内）

【授業概要】

地域・在宅看護学概論で学習した地域のなかで暮らす人々の健康や生活の支援について理解したうえで、本科目を学習する。
 地域・在宅看護の目的を学び、地域のなかで生活する人々や家族（介護者）の現状、地域・在宅看護にかかわる社会資源や地域の人々の生活の支援にかかわる医療や介護の政策から、地域・在宅看護の特性および役割について理解する。
 地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の基本となるものを学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	地域の人々の暮らしを支える社会保障制度：訪問看護の制度（清永）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	
8	・地域・在宅看護におけるマネジメント ・定期試験 （田中・日田）	1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（1時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（1時間）。	授業で用いたテキストや講義資料等で、本科目全体の振り返りをおこない試験に臨む。

基本情報

科目名	地域・在宅看護学援助論
時間割コード	0126310901
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 2
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田中 康子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
田中 康子、清永 麻子、日田 ひとみ

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における看護過程の展開について理解できる。 2. 地域のなかで暮らす人々のQOLを支える看護技術について理解できる。 3. 地域のなかで暮らす人々のQOLを支える時期別(介入時期別)の看護について理解できる。 4. 疾病や障害、加齢に伴う変化をもちながら地域で生活する人々と家族(介護者)の身体的・精神的・心理的・社会的の特徴を理解できる。 5. 地域のなかで暮らす人々の暮らしを支えるための地域共生社会における多職種連携・協働を理解できる。 <p>【個別到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における看護実践のために必要な看護過程の展開の基本的な視点や考え方を説明できる。 2. 地域のなかで暮らす人々の家族を支えるために必要な視点について説明できる。 3. 地域のなかで暮らす人々の安全な生活を支えるために必要な生活環境のなかにあるリスクとその予防について説明できる。 4. 地域のなかで暮らす療養者の生活を支えるために必要な生理的ニードに関する援助の方法について説明できる。 5. 地域のなかで暮らす人々の健康な時期から在宅療養の終了時期までにおける看護の目標や計画について説明できる。 6. 地域のなかで暮らす療養者の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を知り、健康状況、生活機能の状況に応じた個別性のある援助の方法について説明できる。 7. 地域の多様な人々の暮らしを支えるための地域における多職種、関連機関、地域資源との連携および協働の必要性について説明できる。 8. 地域のなかで暮らす人々のQOLの支援について、地域のなかで支援を必要とする場において切れ目のない看護援助について説明できる。
履修上の注意事項	<p>【事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む(2時間)。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う(2時間)。 <p>【履修上の注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義の出席について、以下の1)から3)のすべてを実施することで出席とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 携帯電話等での登録：各回の講義で担当教員が口頭で伝えるキーワードの登録 2) 感想カードの提出：各回の講義を受講した直後に、教室内の指定された場所に提出する。 3) 講義開始直後から終了するまでの時間内において、教室内の座席に着席する。 座席に着席しているかの確認を行う場合もある。 2. 原則、座席指定ではない。授業の状況(授業態度：私語がみられる他)にて、座席指定に変更する可能性がある。また、感染予防対策として座席指定の場合もある。 3. 授業方法として、グループワーク等で実施する可能性がある。その際には、講義中での口頭による説明やCAMPUS SQUARE 掲示で連絡を行う。 <p>【遅刻および欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻：授業開始時間から20分未満に教室に入室した場合。 ・欠席：授業開始時間20分以降に教室に入室した場合。また、授業時間内において教室に入室しなかった場合。

詳細情報

評価方法	<p>【本科目における評価】 定期試験と小テストを合計(100%)した60%以上である。学生便覧の成績評価におけるA、B、Cのいずれかの評価で合格の判定とする。</p> <p>【評価の内訳について】 ・定期試験：70% 配点：担当教員から口頭もしくはCAMPUS SQUAREで連絡を行う。 ・小テスト：30% 配点：担当教員から口頭もしくはCAMPUS SQUAREで連絡を行う。</p> <p>【その他】 1. フィードバック：講義の感想カードの内容について、次回担当講義に口頭で説明、CAMPUS SQUARE、などで行う。 2. 小テスト：いずれかの回で実施する予定である。担当教員から口頭もしくはCAMPUS SQUAREで事前に連絡を行う。終了後に口頭等で解説を行う。</p>
テキスト	<p>主に 1) を使用 1) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2024 . 2) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2023 .</p>
参考文献	<p>・テキストや講義資料に提示する文献 ・適宜提示する</p>
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>田中 康子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>清永 麻子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>日田 ひとみ：看護師として病院と訪問看護ステーションの双方の勤務経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>特別講師 未定：</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>授業内でディスカッション等をとおして、学びを深める。 また、学生からの質問等をCAMPUS SQUAREに掲示する場合もある。</p>

授業計画

授業計画	
【授業概要】授業 講義：15回	<p>地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。</p> <p>地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。</p> <p>また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。</p> <p>地域の人々の暮らしの豊かさや自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	<p>・ガイダンス ・地域・在宅看護における看護過程について（田中）</p>	<p>・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。</p>	講義の展開等の説明

授業計画

【授業概要】授業 講義：15回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさや自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	地域・在宅看護における看護過程の展開と方法（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
3	地域のなかで暮らす人々の家族を支える看護（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
4	地域のなかで暮らす人々の安全な生活を支える看護（清永）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
5	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：療養生活の環境調整（清永）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
6	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：食生活・嚥下（日田）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
7	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：活動（休息）（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	

授業計画

【授業概要】授業 講義：15回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさや自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	地域のなかで暮らす人々の生活を支える 看護：排泄 （清永）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
9	地域のなかで暮らす人々の生活を支える 看護：清潔・衣生活（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
10	地域のなかで暮らす人々の生活を支える 看護：呼吸・循環（日田）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
11	地域のなかで暮らす人々の生活を支える 看護：創傷管理・与薬（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
12	地域・在宅看護における終末期の看護 ：終末期ケアについて（特別講師）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	日程・担当の変更の可能性あり
13	時期別の看護：急性増悪期・終末期・在宅療養終了期（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	

授業計画

【授業概要】授業 講義：15回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさと自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	時期別の看護：健康な時期・外来受診期・入院時・在宅療養準備期・在宅療養移行期・安定期（清永）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する．わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）． ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）． 	
15	地域・在宅看護におけるマネジメントの実践について（田中）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する．わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）． ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）． 	

基本情報

科目名	母性看護学概論
時間割コード	0126312101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	火 1
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	牛之濱 久代
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
牛之濱 久代、三宮 千尋、中島 奈美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>目的：本科目では、人間の健康を性と生殖に関する側面からとらえ、母性看護学の基盤となる諸概念について学び、母子と家族を取り巻く環境の変化や母性看護の変遷と現況、および動向を把握し、必要な支援について考察する。</p> <p>目標： 母性看護の基盤となる諸概念について理解することができる。 母性看護の変遷と現況、および動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。 母子と家族に必要な支援について考察できる。</p>
履修上の注意事項	<p>1. 事前および事後学修について 講義初日に授業展開日程表を配布するので、事前に教科書を読み、その分野に関する内容を予習すること。また、授業資料内容を教科書や参考書と照らし合わせ復習すること。</p> <p>2. 遅刻の取扱いについて 30分以内の遅刻は3回で欠席1回とする。なお、30分以上の遅刻は欠席とする。</p> <p>3. 理解度を確保するため講義内で小テストを実施する。</p>
評価方法	<p>小テスト(2回)60%、期末試験40%</p> <p>フィードバックとして、小テストについては、全員が受験したことを確認した後、正答・解説を掲示するとともに希望者には個別に点数を開示します。</p> <p>期末試験については、試験終了後に正答・解説を掲示するとともに希望者には点数を開示します。</p>
テキスト	<p>森恵美他『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護 [1]』第14版 医学書院、2021年</p> <p>森恵美他『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護 [2]』第14版 医学書院、2021年</p> <p>『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学 [9]』第15版 医学書院、2019年</p>
参考文献	<p>国民衛生の動向</p> <p>前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性』、中央法規、2011年</p> <p>堀内成子編集『パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護第2版』照林社、2017年</p>
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	牛之濱久代：看護師、助産師として病院勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>授業中に課題を与え個人思考後ペアで話し合い、意見交換をする。また、話し合った結果を全体発表し、共有する。</p> <p>毎回Forms用いての授業に関するリアクションペーパーを収集し、授業内容の理解度や疑問、意見などへの回答を行う。</p>

授業計画

授業計画
<p>8回にわたり、以下の内容・担当で講義を行う。講義はテキストを中心に担当が資料を作成して進める。配布資料は授業実施前までにキャンパススクエアに掲示するので各自、印刷または電子媒体で準備をする。</p> <p>授業は講義中心だが、テーマによってグループ討議やワークショップを取り入れることがある。</p> <p>各回の事前・事後学修については以下を参照のこと。</p> <p>出席確認のため、出席登録と合わせ、毎回、Formsを使って授業に関する意見・質問・感想など、アンケートに答える。</p> <p>試験は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：第2回および第3回の授業内容について2回に分けて実施(各25点) ・期末試験：第1、4、5、6、7、8回の授業内容について実施(50点)

授業計画

8回にわたり、以下の内容・担当で講義を行う。講義はテキストを中心に担当者が資料を作成して進める。配布資料は授業実施前までにキャンパススクエアに掲示するので各自、印刷または電子媒体で準備をする。

授業は講義中心だが、テーマによってグループ討議やワークショップを取り入れることがある。

各回の事前・事後学修については以下を参照のこと。

出席確認のため、出席登録と合わせ、毎回、Formsを使って授業に関する意見・質問・感想など、アンケートに答える。

試験は以下のとおりとする。

- ・小テスト：第2回および第3回の授業内容について2回に分けて実施（各25点）
- ・期末試験：第1、4、5、6、7、8回の授業内容について実施（50点）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	1.母性看護の概念とその特質：母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：母性看護の各概念について定義をまとめておく（1時間）	
2	2.人間の性と生殖：人間の性の発達と課題、特徴、性の決定・分化、生殖器の構造と機能（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：人間の性の特徴、性の決定や分化性周期、ホルモンの働きをまとめておく（1時間）	小テスト 対象範囲
3	3.社会と母性保健：母子保健統計の動向、母子保健行政・施策（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：母子保健統計指標と動向、母子保健施策についてまとめておく。（1時間）	小テスト 実施 小テスト 対象範囲
4	4.母性看護の沿革と現況：日本の母性看護の発達－近代以前近代以降、現代（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：母性看護の歴史の変遷と今後の展望についてまとめておく（1時間）	小テスト 実施
5	5.リプロダクティブヘルス・ライツ、家族計画、受胎調節（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：リプロダクティブヘルス・ライツ、家族計画、受胎調節についてまとめておく（1時間）	
6	6.出生前診断を受けるカップル、不妊症カップルの理解と看護ケア（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：出生前診断や不妊症治療における看護論理的課題についてまとめておく（1時間）	
7	7.ハイリスクな状況にある人々への看護ケア：子ども虐待とデートDV（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：子ども虐待、デートDVのリスクや予防、看護についてまとめておく（1時間）	
8	8.女性・家族のライフサイクル：現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族発達と発達課題（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：時代による女性のライフサイクルの変化や家族発達・発達課題と支援についてまとめておく（1時間）	

基本情報

科目名	母性看護学援助論
時間割コード	0126312201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	水 3
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	中島 奈美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
牛之濱 久代、三宮 千尋、中島 奈美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業目的：周産期は女性のライフサイクルの中で最もダイナミックな身体的変化を起こす。さらに、女性の健康は胎児・新生児の発育や健康状態にも影響を及ぼす。本科目では、看護師として周産期における母性・胎児・新生児およびその家族に必要なケアの糸口を見出す能力を育成する。</p> <p>到達目標</p> <p>女性の「思春期」「成熟期」「更年期」「老年期」各期における特徴と健康課題を理解することができる。</p> <p>周産期の女性と胎児、新生児を中心とした家族の変化を記述できる。</p> <p>周産期の女性と胎児、新生児の身体的、心理・社会的変化と生活への適応を促す援助と健康逸脱時の援助を理解することができる。</p> <p>周産期の女性と胎児・新生児を中心とした家族全体の健康保持・増進および異常予防のために必要な援助を理解できる。</p>
履修上の注意事項	<p>講義初日に授業展開日程表を配布するので、教科書を読みその分野を予習すること(2時間)</p> <p>授業資料内容について教科書や参考書を読み返し復習すること(60分)。</p> <p>演習課題についてレポートを作成し演習に臨むこと(60分)。</p>
評価方法	<p>原則：試験90%、レポート10%</p> <p>フィードバックとして、適時コメントを行います。</p>
テキスト	<p>森恵美他編集・著『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>森恵美他編集・著『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>末岡 浩他編集・著『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』第14版、医学書院、2019年発行</p>
参考文献	<p>医療情報科学研究所(編集)『病気がみえる 産科』第4版、メディックメディア、2018年</p> <p>太田操編著『ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版』医歯薬出版 2024年</p>
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	牛之濱 久代:看護師、助産師として病院勤務経験、
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>毎回Formsを用いたリアクションペーパーの収集、出席登録と合わせた出席確認、授業内容の理解度確認、疑問や意見への回答を行う。</p> <p>授業資料は、Campus Squareにアップロードする。</p>

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	母性看護の特徴と母性看護学に必要な看護技術：情報収取・アセスメント技術(牛之濱)	<p>事前：教科書で授業内容を下調べしておく。(2時間)</p> <p>事後：母性看護における看護過程の特徴についてまとめておく。(2時間)</p>	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	女性のライフステージ各期の特徴と保健 (1) 思春期・成熟期：月経異常、性感 感染症など（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を下調べしてお く。（2時間） 事後：時代によるライフサイクルと看護 の変化についてまとめておく。（2時間）	
3	女性のライフステージ各期の特徴と保健 (2) 更年期障害、骨粗鬆症など（牛之 濱）	事前：教科書で授業内容を下調べしてお く。（2時間） 事後：思春期の特徴と健康課題について まとめておく。（2時間）	
4	妊娠期の看護：妊娠成立と妊娠に伴う 母体や胎児の変化，妊娠期の心理・社会 的特性（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を下調べしてお く。（2時間） 事後：成熟期の特徴と健康課題について まとめておく。（2時間）	小テスト 実施内容：2 回目－3回目（15点）
5	妊娠期の看護：妊婦と胎児の健康アプ ロイント（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情 報整理（母親）（2時間）	
6	妊娠期の看護：妊婦の健康管理，妊婦 の日常生活とセルフケア（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情 報整理（新生児）、ワークブック1-3p（2 時間）	
7	妊娠期の看護：妊婦と家族の看護，親 になるための準備教育・妊娠期の異常（ 牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情 報整理（新生児）、ワークブック1-3p（2 時間）	
8	分娩期の看護：分娩の三要素と正常分 娩の臨床経過（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：ア セスメント、ワークブック4-6p（2時間）	小テスト 実施内容：4 回目－7回目（20点）
9	分娩期の看護：分娩時の看護，分娩異 常、産婦の安楽及び家族に対する看護（ 牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：ア セスメント、ワークブック7-8p（2時間）	
10	産褥期の看護：退行性変化，進行性変 化，心理的变化・母親適応（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：ア セスメント、ワークブック9-10p（2時間 ）	小テスト 実施内容：8 回目－9回目（15点）
11	産褥期の看護：母子と家族に対する看 護援助、母乳哺育支援、育児支援、産褥 異常（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：ア セスメント、ワークブック11－13p、 26、27p（2時間）	
12	新生児期の看護：新生児の生理的特徴 と看護（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：関 連図、ワークブック14、18－21p（2時間 ）	小テスト 実施内容：10 回目－11回目（20点）
13	新生児期の看護：新生児期の異常と看 護（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：看 護計画、ワークブック22、23p（2時間）	
14	看護過程事例の学習内容確認、追加・修 正（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：看 護計画、ワークブック16、17p（2時間）	
15	まとめ（牛之濱）	事前：本授業で学んだ資料やレポートを 読む（2時間） 事後：学習の見直し（2 時間）	

基本情報

科目名	成人看護学援助論（急性期療養支援）
時間割コード	0126311201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 3, 木 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、森 雄太、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期、疾患の急性発症・急性増悪など、生体侵襲を受けた対象を全人的に理解し、回復を促進する看護を理解する 2. 生活を再構築する対象者と家族の心理・社会的側面を理解し、支援に関わる多職種や看護師の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体侵襲を受けた対象の病状と治療・回復過程における看護師の役割を説明できる 2. 疾患の急性発症や増悪にある対象への療養支援と患者・家族教育を説明できる 3. 周術期の看護過程と生体侵襲を受けた対象の回復過程を説明できる 4. クリティカルケア看護の対象となる対象の特性と家族を含めた療養支援を説明できる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、1年次に履修した解剖生理学や基礎看護学等の知識を復習または確認する（事前学修120分） 2. 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） 3. この授業は3年次の成人看護学実習（急性期療養支援）および4年次看護統合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験(100%)で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の講義のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 2. 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護 2023改訂第4版 南江堂 3. 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア 2023改訂第4版 南江堂 4. 成人看護学 成人看護技術「Web動画付」2022年改訂第3版 南江堂
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>杉野由起子：看護師として急性期領域での看護、急性・重症患者看護の専門看護師としての経験をもとに、急性期から回復期の患者と家族への直接ケア・教育、最新のケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p> <p>森 雄太：急性期領域での看護、とくに外科領域に関する経験をもとに急性期から回復期の患者と家族への直接ケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p> <p>西森 直美：看護師として急性期領域とくに外科領域の経験、訪問看護での経験をもとに、急性期から回復期、地域在宅ケアへ向けた教育など、退院後を見据えたケアの具体例を取り入れて授業を展開する</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス 急性期看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	周術期看護 手術前期から手術期の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
3	周術期看護 手術後期看護と退院支援	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	肺葉切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	人工股関節置換術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	大腸/胃切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	肝切除術/胆嚢摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	開頭脳腫瘍摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	乳房切除術/子宮摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	冠動脈バイパス術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	心不全の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
15	集中治療を受ける対象の回復を促進する看護援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	基礎看護学実習
時間割コード	0126330101
ナンバリングコード	N13031-T-13
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野（実習））
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、坂口 里美、古堅 裕章、古江 佳織、齋藤 圭子、田中 康子、未定、上妻 尚子、北原 崇靖、赤峰 隆元、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的 看護の提供の場を理解し、多職種との連携のあり方を学び、看護職の専門性を認識する。</p> <p>実習目標 1. 看護職者の専門性を認識する。 看護の提供の場について知る。 他職種との連携のあり方について知る。 2. 基礎看護学実習 で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。</p>
履修上の注意事項	<p>1. 必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。</p> <p>2. 単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。</p> <p>3. 学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員（担当教員および科目責任者）が協議をした上で実習を中止する場合がある。</p> <p>4. 予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。事前・事後学習として実習記録等の学習時間に要する時間は各2時間である。</p>
評価方法	<p>実習内容（学習・実践・記録）：60％，提出・健康管理・実習態度：40％</p> <p>フィードバックとしては、カンファレンス、実習中及び実習後に行動目標に沿って面談を行う。</p>
テキスト	その都度、紹介する。
参考文献	その都度、紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>実務経験：上妻、古江、古堅、田中、赤峰、坂口、北原、巖、齋藤、西森は病院、施設等での看護師勤務・保健師勤務経験、柴田は小中高校での養護教諭経験者である。</p> <p>実務経験を活かした教育内容：実習での学生の経験は学内での学習とのつながりが見出しにくいいため、教員の実務経験をもとにした説明が必要である。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>○事前課題での学習を実習で確認する反転授業を取り入れ、実習期間中のカンファレンスではテーマについて意見交換をする。実習中の看護ケア経験から自己の課題を見出すためにリフレクションし問題解決学習を教授する。</p> <p>○ICTを取り入れた授業としては、事前・事後学習の授業資料をCampus Squareにアップロードする。</p>

授業計画

授業計画
<p>診療場面、入院患者の日常生活を見学することで看護の必要性を理解する。そのため、学外実習として病院施設での経験と学内での学習を計画する。</p> <p>実習1日目と5日目は学内、実習2日目から4日目は病院でシャドーイング実習を経験する。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	基礎看護学実習
時間割コード	0126330201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、坂口 里美、古堅 裕章、古江 佳織、齋藤 圭子、田中 康子、未定、上妻 尚子、北原 崇靖、赤峰 隆元、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的</p> <p>コミュニケーションを通して日常生活援助を中心とした看護実践を経験する。看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解し看護過程の展開について確認し、今後の課題を見出す。</p> <p>実習目標</p> <p>1.看護ケアの必要性を理解する。</p> <p>コミュニケーションを通して患者を理解する。日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。</p> <p>2.基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。</p>
履修上の注意事項	<p>1.必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。</p> <p>2.単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。</p> <p>3.学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員(担当教員および科目責任者)が協議をした上で実習を中止する場合がある。</p> <p>4.予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。事前・事後学習として実習記録等の学習時間に要する時間は各2時間である。</p>
評価方法	<p>実習内容(学習・実践・記録):60%、提出・健康管理・実習態度:40%</p> <p>フィードバックとしては、カンファレンス、実習中および実習後に行動目標に沿って面談を行う。</p>
テキスト	その都度、紹介する。
参考文献	その都度、紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>上妻、古江、古堅、田中、赤峰、坂口、北原、巖、齋藤、西森は病院、施設等での看護師勤務・保健師勤務経験、柴田は小中高校での養護教諭経験者である。</p> <p>実務経験を活かした教育内容:実習での学生の経験は学内での学習とのつながりが見出しにくいいため、教員の実務経験をもとにした説明が必要である。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>○事前課題での学習を実習で確認する反転授業を取り入れ、実習期間中のカンファレンスではテーマについて意見交換をする。実習中の看護ケア経験から自己の課題を見出すためにリフレクションし問題解決学習を教授する。</p> <p>○○ICTを取り入れた授業としては、事前・事後学習の授業資料をCampus Squareにアップロードする。</p>

授業計画

授業計画
<p>診療場面、入院患者の日常生活についてコミュニケーションを通して援助をすることで看護実践を経験する。看護アセスメントに基づく看護ケアの必要性を理解し看護過程の展開について確認し、今後の課題を見出す。</p> <p>上記の実習目的を達成するために、10日間の実習を行なう。実習1日目と10日目は学内、実習2日目から9日目は病院で看護ケアの見学もしくは実践を経験する。</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	小児看護学実習
時間割コード	0126330901
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、未定

詳細情報

<p>授業の目的・到達目標</p>	<p>小児看護学実習は ・ によって構成される。</p> <p>【小児看護学実習】</p> <p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの人権と尊厳を尊重する態度を養う。 2. 子どもの成長発達過程を理解し、成長発達を促進する支援の必要性を理解する。 <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとの関係性を構築できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自ら子どもへアプローチし、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。 2) 子どもにとっての遊びの重要性を説明できる。 3) 子どもの人権と尊厳を尊重した関わりについて説明できる。 2. 子どもの成長発達過程について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数の子どものフィジカル・アセスメントができる。 2) 複数の子どもの成長発達段階のアセスメントができる。 3. 看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた生活援助について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な生活習慣(食事・排泄・睡眠・更衣・清潔)、および社会性の獲得と自立に向けた援助を説明でき、その一部を実践できる。 2) 成長発達段階に応じた事故防止と感染防止の援助を説明でき、その一部を実践できる。 4. 子どもの生活の場の特徴・役割と、多職種連携について考察できる。 5. 日々の課題を明確にし、主体的な学習能力を身につける。 <p>【小児看護学実習】</p> <p>目的</p> <p>健康課題をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの人権を尊重した看護、子どもとその家族中心の看護(patient and family-centered care)を提供する基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学と実践を通し、医療の場における子どもの人権を尊重した看護について考察できる。 2. 見学と実践を通し、子どもと家族中心の看護(patient and family-centered care)の実際を説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康課題を査定し、治療、看護、処置、検査等の必要性を説明できる 2) 子どもの気持ちや生活、家族の子育て能力を査定し、子どもと家族中心の看護を考察できる 3. 子どもを取り巻く、家庭、地域、保健、医療、福祉、教育の機能と連携を理解し、小児看護の役割を理解できる。 4. 主体的に実習に臨み、自己の課題を明らかにできる。
<p>履修上の注意事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項を熟読し、事前学習(小児の特性等小児看護学の知識および基礎医学知識・小児看護技術および基礎看護技術など、10時間)を行い、子どもと家族へ看護を提供できる状態で実習に臨むこと。更に、実習中においては、実習記録の加筆修正のための事後学習が毎日3~4時間程度必要となる。 2. 毎日出席することが前提の目標設定であるため、欠席しないよう健康管理に留意する。 3. 誓約した内容を遵守すること(大学との契約、臨地との契約など) 4. 自己の体調不良等で実習日数の不足した場合の追実習配置は困難であるため、翌年度に再履修となる。 <p>*学習の進捗状況に応じたフィードバックを行う。必要に応じて面談実施。</p>

詳細情報

評価方法	<p>単位取得資格条件：2/3以上の出席</p> <p>1. 小児看護学実習 と小児看護学実習 を合わせて、小児看護学実習の評価とする</p> <p>2. 実践および実習態度：50%（準備性、主体性、実践内容、安全・安楽への取り組みなど）</p> <p>3. 実習記録とカンファレンス：50%（根拠、具体性、個別性、修正の度合いなど）</p> <p>実習要項に示した評価表を基礎資料とし、上記評価方法により指導者および教員による評価を総合して評価判定する。つまり、実習に対する準備段階から評価対象となることに留意すること。</p> <p>実習中、適宜フィードバックを行い、実習終了時は必要に応じ面接を行う</p>
テキスト	<p>これまで履修した科目で用いたテキスト全て Campus square資料も含む</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉田慶子編．ケアの基本がわかる 重症心身障害児の看護 改訂版．2023．へるす出版． ・ 看護がみえるvol.5 対象の理解 ．2023．メディックメディア ・ 松岡真里．小児看護と看護倫理．2020．へるす出版． ・ 松森直美．小児看護ケアモデル実践集．2012．へるす出版． ・ 及川郁子．子どもの外来看護．2009．へるす出版． ・ 病気が見えるシリーズ（小児科以外も含む）．メディックメディア ・ 「看護診断ハンドブック 第12版」リンダ J・カルペニート＝モイエ著 2023 医学書院 ・ 小児看護学の教科書・参考書・授業中使用の印刷教材・資料、Campus square資料 など全て
実務経験のある教員による授業の有無	<p>有</p>
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>松岡聖美：看護師としての病院勤務経験から、臨床で生じている現象、これからの子どもの変化の予測を学生へ指導する</p> <p>二宮球美：看護師としての病院勤務経験から、臨床で生じている現象、これからの子どもの変化の予測を学生へ指導する</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	<p>学生実習計画に基づき実践する学生主体の実習内容となる。また、実践、見学した事象を考察、評価し実習記録として外化する学習形式である。</p> <p>PCでの記録作成や保管等のICT機器を使用する際の情報管理について身に付けられる実習内容とする。</p>

授業計画

授業計画	
<p>小児看護学実習は、小児看護学実習 と で組み立てられている。</p> <p>小児看護学実習 は、保育所・保育園・こども園（玉名市・熊本市・玉東町）において臨地3日間、重症心身障がい児施設において1日間、学内1.5日間の実習を行う。この間に、子どもの成長発達段階の理解と日常生活援助を通して子どもとの関係性構築ができるよう、主体的に取り組むこと。</p> <p>小児看護学実習 は、病院・施設において臨地3.5日間、学内1.5日間の実習を行う。小児看護学実習 での学びを活用し、病気を持つ子どもとその家族へ看護を提供することになる。</p> <p>以上のように、 と では実習内容が異なるため、実習記録で求められることも異なる。様式内の注意事項をよく読み、記載すること。また、この科目は実習科目であるため、「臨地で体験・経験した具体的事象」と「既習科目で身につけた抽象的概念」とを結びつけることに、学びの本質がある。経験する事象が既習科目のどの部分に相当するのか、常に考えながら実習を行うこと。</p>	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	1日目 学内 オリエンテーション	シラバスおよびcampus square上の実習要項の熟読と、不足する知識の復習（3～6時間：個人差が大きい）	
2	2日目 保育園等臨地 オリエンテーションと見学、報告書作成	オリエンテーションのアポイント、保育指針の確認（2時間） 報告書内容から、臨地実習に向けて必要となる発達段階や遊びについての復習（2時間）	
3	3・4日目 保育園等臨地 遊びやコミュニケーション、生活の援助、安全管理、感染管理	実習計画、および実習記録作成（3～4時間）	
4	5日間 重症心身障がい児施設 見学、生活援助の一部実践	実習計画、および実習記録作成（3～4時間）	
5	6日目 学内 ・カンファレンス ・小児看護学実習 の自己評価	臨地での学習内容を基にカンファレンスに向けた準備（2時間） 小児看護学実習 へに向けた準備（1時間）	
6	7日目 学内 病院・施設オリエンテーション	配布済みのオリエンテーションの熟読 臨地までの移動経路の確認（3時間）	
7	8～10日目 臨地 見学、実践	実習計画、およびアセスメント・実習記録作成（3～4時間）	
8	11日目 学内 実習のまとめ 追加修正、自己評価など	これまでの実習記録の不足分追加、目的目標についての評価等（3～4時間）	

基本情報

科目名	成人看護学援助論（慢性期療養支援）
時間割コード	0126311301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 3, 木 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	清永 麻子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、齊藤 圭子、西森 直美、清永 麻子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患や障害をもちながら生活する人とその家族への援助・支援を理解する 慢性疾患を有する人と家族のセルフマネジメントを促進する看護援助、教育支援・方法について理解する 慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するための社会資源の活用や専門職の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 主な治療方法と治療を受ける人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる 慢性疾患や障害をもちながら生活する人とその家族への具体的な援助方法を理解し説明することができる 疾患の急性増悪を予防するための療養支援と患者・家族教育を説明できる 慢性疾患群における疾病管理の現状と課題を理解し説明することができる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、解剖生理学や成人看護学援助論（急性期療養支援）の知識とつなげ、復習または確認する（事前学修120分） 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） この授業は3年次の成人看護学実習（慢性期療養支援）および4年次看護統合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験（100%）で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 成人看護学 慢性期看護 2023年改訂 第4版 南江堂 成人看護学成人看護技術「Web動画付」2022年改訂 第3版 南江堂 看護学専門分野教科書シリーズ 成人がん看護学 2023年初版第1刷 理工図書
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>清永麻子：看護師として病院勤務での経験から、慢性疾患療養支援について、医療機関から退院支援までを包括し、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>齊藤圭子：看護師として病院勤務での経験から、慢性疾患の急性増悪の予防や生活指導、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>西森直美：看護師として病院勤務、訪問看護の経験から慢性疾患を抱える患者の今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	授業で得た知識をもとに、テーマを設け小グループでのグループワークやディスカッションを行う

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス（清永） 慢性期看護概論（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	慢性疾患を有する人とその家族への援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
3	神経系の障害を有する人とその家族の看護（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	運動機能障害を有する人とその家族の看護（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	循環器系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	ペースメーカーを装着している患者の援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	インスリン療法・内分泌療法を受ける患者の援助（齊藤）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	腎障害を有する人とその家族への援助（西森）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	消化器系の障害を有する人とその家族への援助（西森）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	がん薬物療法を受ける人とその家族の理解と看護援助（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
15	慢性疾患の管理の現状と課題：疾病管理について（清永）	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	老年看護学実習（生活支援）
時間割コード	0126330701
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	山本 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野（実習））
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢変化及び疾患などを抱え生活環境が変化するなか、自宅で生活する高齢者と家族の支援について理解することができる。 2) 多職種連携における看護師および多職種の役割について理解し、その一員として看護を提供することができる。 <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴を踏まえ、尊厳に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 2. 高齢者へのケアサービスを理解し、感染に留意し安全に実践することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職・介護職の役割を理解し、実践することができる。 2) 施設ケアにおける環境面での配慮に気づき、行動ができる。 3) 高齢者ケアにおける連携について理解することができる 3. 施設利用者の家族状況が理解できる。 4. ケアサービス提供場面を通して、観察した場面をアセスメント・評価することができる。
履修上の注意事項	<p>実習要項を熟読し、体調管理を十分に行い実習に臨むこと。高齢者施設での実習のため、公認欠席とは別に、風邪症状があるまたは37 以上の熱、下痢などがある場合は、実習を行うことはできません。そのため、体調には十分留意してください。施設または学内で感染症の発生や自然災害などで実習が困難な場合は、キャンパススクエアにて随時、掲示します。</p> <p>実習に際し、事前事後で日々120分程度の予習復習をするようお願いいたします。</p>
評価方法	実習要項の評価表に基づき評価を行います。
テキスト	老年看護学に関する講義で使用したテキストに加え、老年看護学に関連する分野のテキスト。
参考文献	必要時、適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	<p>山本恵子：看護師・保健師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に付けられるように指導する。</p> <p>北原崇靖：看護師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に付けられるように指導する。</p> <p>生野繁子：看護師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に付けられるように指導する。</p>
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイなどを適宜、行う。日々の実習指導や学内日を通じて学習のフィードバックを行う

授業計画

授業計画
<p>場所：介護老人保健施設・介護老人福祉施設等</p> <p>日程：実習要項に記載されている期間（2週間）</p> <p>計画：1 週目の月曜日は学内でオリエンテーション、2 週目の金曜日は学内でまとめ。それ以外は臨地のスケジュールに合わせて実習を行う。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	老年看護学実習（療養支援）
時間割コード	0126330801
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	北原 崇靖
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野（実習））
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	実習目的 介護保険施設に入所している高齢者へケアサービスを通して理解を深め、健康課題に対する シームレスケアのあり方を学ぶ。 実習目標 1．高齢者の特徴を理解し、受けているケアサービスの目的が理解できる。 2．高齢者の健康状態及び生活機能から健康課題を抽出し、高齢者及び家族への援助を実践することができる。 3．施設における高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる。 4．高齢者の尊厳を守り、意思決定支援の多職種連携・シームレスケアのあり方を学ぶ。
履修上の注意事項	実習要項を熟読し、体調管理を十分に行い実習に臨むこと。高齢者施設での実習のため、公認欠席とは別に、風邪症状があるまたは37 以上の熱、下痢などがある場合は、実習を行うことはできません。そのため、体調には十分留意してください。施設または学内で感染症の発生や自然災害などで実習が困難な場合は、キャンパススクエアにて随時、掲示します。 実習に際し、事前事後で日々120分程度の予習復習をするようお願いいたします。
評価方法	実習要項の評価表に基づき評価を行います。
テキスト	老年看護学に関する講義で使用したテキストに加え、老年看護学に関連する分野のテキスト。
参考文献	必要時、適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	北原崇靖：看護師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に着けられるように指導する。 山本恵子：看護師・保健師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に着けられるように指導する。 生野繁子：看護師として病院勤務した経験を活かし、学修者が高齢者ケアに必要な実践力が身に着けられるように指導する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイなどを適宜行う。学内日や実習指導を通じて適宜、学修のフィードバックを行う

授業計画

授業計画
場所：介護老人保健施設・介護老人福祉施設等 日程：実習要項に記載されている期間（2週間） 計画：1週目の月曜日は学内でオリエンテーション、2週目の金曜日は学内でまとめ。それ以外は臨地のスケジュールに合わせて実習を行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	精神看護学実習
時間割コード	0126331101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	緒方 浩志
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
緒方 浩志、上田 智之

詳細情報

授業の目的・到達目標	精神障害者とのかかわりを通して、対象者に生じている生活上の困難(生きにくさ)に対する理解を深める。また、セルフケア理論およびストレス理論に基づいたアセスメントによる対象者のセルフマネジメント能力を高める支援方法を理解する。さらに、治療的コミュニケーションをはじめとした精神看護実践能力を身につけることを目的とする。
履修上の注意事項	1.実習要項に沿って学習し、レポートを作成し、実習初日に提出する。 2.精神保健福祉に関する関連法規について事前に学習する。 3.事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。 4.自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。 5.実習内容に応じて事前事後学習(各120分)を行い実習に参加する
評価方法	実習時間の2/3以上の出席がない場合は評価対象とならない。 実習評価表に基づいて総合的に評価する。 フィードバックとして、レポートは実習内で解説する。
テキスト	精神看護学、の講義で使用したもの。
参考文献	1.精神看護学、で使用した教科書 2.岡田佳詠ほか.認知行動理論に基づく精神看護過程,中央法規,2016. 3.萱間真美.ストレスモデル実践活用術,医学書院,2016.
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	上田智之:看護師として精神科病院勤務経験 緒方浩志:看護師として精神科病院勤務経験 臨床での具体的な事例を交えて実践者に必要な思考力・実践力を高める授業を展開する
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	発問を行い対象者に起きている現象を知識と結び付けられるよう指導していく。 また、カンファレンスでのディスカッションを実施する。

授業計画

授業計画
実習期間:2週間
実習施設:精神科病院および地域精神関連施設
実習配置:各グループを人数に応じて3グループまたは4グループに分け、実習を実施する。 学内日は別途指示した日とする。
実習内容:受け持ち患者を1名担当し、看護過程の展開を通して対象理解を深める。 アセスメントおよびケアを焦点化し、看護計画の立案をする。 プロセスレコードを作成し、自己および他者の振り返りを通して自己理解を深める。 地域で生活する対象者の現状と必要な社会資源について理解を深める。 地域における対象者の看護についてリカバリーおよびストレスの視点から理解を深める。
詳細は精神看護学実習要項を参照

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	地域・在宅看護学実習
時間割コード	0126330401
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	田中 康子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
田中 康子、清永 麻子、日田 ひとみ

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>本科目は、実習期間2週間の14日間(祝祭日を除く)における学内と臨地で経験し目標の達成をめざす。</p> <p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護の介入時期別にある療養者を生活する人としてとらえ、療養者の尊厳を基盤とした援助について理解し、日常生活を支援するための看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。 2. 看護の継続性をふまえ、社会資源の活用や他職種との連携を理解し、地域のなかで生活する療養者(家族・介護者)に対する必要なケアを判断する基礎的能力を養う。 <p>【個別到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における療養者の生活の場(居宅等)の特性について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者の生活の場である住居の内・外における環境(人的・物的)および社会資源について述べるができる。 2) 在宅療養(移行)支援における保健・医療・福祉・介護の専門職者(関連職種・機関)との連携の必要性を述べるができる。 3) 療養者の生活の場や看護活動に関連する法律(介護保険法、医療保険制度、障害者総合支援法など)について述べるができる。 2. 生活の場における療養者(家族・介護者)とのかかわりをとおして、療養者(家族・介護者)のQuality of Life(QOL)を支援することの重要性について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者(家族・介護者)の心理の背景について述べるができる。 2) 療養者(家族・介護者)の思いや考えについて述べるができる。 3) 援助・ケアをとおして、療養者(家族・介護者)と受容・共感するコミュニケーションを図ることができる。 3. 疾病や障害、加齢に伴う変化などをもちながら生活している療養者(家族・介護者)に対する必要な日常生活の援助技術を説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者の日常生活における生活の機能(疾病や障害、加齢に伴う変化などの状態を含む)について述べるができる。 2) 看護師に同行し、療養者の健康障害や自立度に応じた援助活動(健康状態の観察、援助・ケア)に参加することができる。 3) 療養者(家族・介護者)の自律(自立)、内面的な意欲、強みを考慮した援助活動について述べるができる。 4) 療養者の疾病および障害、加齢に伴う変化に対する基本的ケアについて述べるができる。
------------	--

<p>履修上の注意事項</p>	<p>【個別到達目標】の続き</p> <p>4. 療養者の尊厳を基盤とした援助について説明できる。 療養者の自尊心や自己（意思）決定を尊重することについて述べるができる。</p> <p>5. 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・機関）との連携の学びから、今後の地域・在宅サービスや在宅看護の課題について説明できる。 1) 生活の場における安全管理・感染管理・災害時の対応など地域における看護師の役割を述べる ことができる。 2) 地域における他職種の各職種の専門性および他職種との連携の方法について述べる ことができる。 3) 地域で生活する人々を取り巻く家族（介護者）や社会をふまえ、地域・在宅看護の課題について 述べるができる。</p> <p>6. 看護職者としての基本的態度を身につけることができる。 1) 主体的に学習し、自己の課題を明確にすることができる。 2) 報告・連絡・相談、時間厳守（記録類に関してを含む）など自己の行動に責任をもつ ことができる。 3) 療養者および家族（介護者）のプライバシーを守ることができる。 4) 相手の立場を理解し、尊重した態度や礼節（挨拶・言葉遣い・身だしなみなど）をもって接 することができる。 5) 自己の健康管理ができる。 6) 協調性（リーダーシップ、メンバーシップ）をとることができる。</p>
<p>評価方法</p>	<p>【履修上の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地（実習施設）：初日は施設で更衣場所を確認した後に着替える。 ・学内：私服で参加する。実習中であることを考慮する。 <p>【事前および事後学習】</p> <p>1. シラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習 1) 実習要項および実習記録を実習開始までに熟読する。地域・在宅看護学概論、地域ケアシステム 論、地域・在宅看護学援助論、地域・在宅看護学方法論、の講義で使用したテキストおよび配布資 料、図書館の書籍、専門書等で振りかえりをおこない実習の事前に確認する。わからないまたは明 確に理解できていない言葉や意味等の事項については、事前に調べて実習に臨む。 2) 配置された実習施設の特性等・地域性（市町村等のサービスも含む）を事前に調べる。 3. 事後学習 実習終了後に、実習要項を熟読し振りかえりを行いながら実習記録を作成する。自己の課題を明 確にし、講義で使用したテキストおよび配布資料、図書館の書籍、専門書等にて学習した内容を確 認し実習の事後の学びを深める（毎日2時間）。</p> <p>【フィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別における指導や面談等をおこなう。 ・実習記録等に指導内容やコメントの記載、口頭での助言等をおこなう。 <p>【評価方法】</p> <p>1. 令和6年度地域・在宅看護学実習の実習評価表に基づき評価（100%：100点）を行う。 2. 1.の結果において、学生便覧の成績評価におけるA、B、C、Dのいずれかの評価で可否の判定と する。</p> <p>【遅刻および欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻：集合場所において開始時間に間に合わなかった場合 ・欠席：実習の時間において、一日の規定時間の半分～一日規定時間に参加できなかった場合
<p>テキスト</p>	<p>1) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の 基盤, 医学書院, 2022 . 2) 河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実 践, 医学書院, 2023 .</p>
<p>参考文献</p>	<p>令和5年度地域ケアシステム論、地域・在宅看護学援助論、地域・在宅看護学方法論、の講義で配 布した資料や提示した参考文献等</p>
<p>実務経験のある教員による授業の 有無</p>	<p>有</p>

詳細情報

<p>実務経験・実務経験を活かした教育内容</p>	<p>田中 康子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>清永 麻子：看護師として病院勤務での経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p> <p>日田 ひとみ：看護師として病院と訪問看護ステーションの双方の勤務経験から、地域・在宅全般のしくみや機関の役割機能、今後の課題等を具体的な場面を交えて看護者に必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。</p>
<p>アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施</p>	<p>【アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施】</p> <p>学内や実習施設内でカンファレンスでディスカッション等をとおして、学びを深める。また、学生からの質問等をCAMPUS SQUAREに掲示する場合もある。</p>

授業計画

<p style="text-align: center;">授業計画</p>	
<p>【概要】</p> <p>地域のなかで疾病や障害、加齢に伴う健康上の変化をもちながら生活する療養者を身体的、精神・心理的、社会的側面からとらえ、地域・在宅看護の介入時期別にある療養者（家族・介護者）の生活の支援に必要な援助、社会資源の活用や他職種との連携、療養者の尊厳を基盤とした援助について理解し、地域・在宅看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。</p> <p>【展開】</p> <p>医療施設、訪問看護ステーション等において2週間の実習を設定する。</p> <p>【配置】</p> <p>看護学科で配置した各実習グループにおいて数名の学生を、医療施設、訪問看護ステーション等の実習施設で実施する(実習施設により異なる)。</p> <p>【オリエンテーション】 実習期間内に祝祭日がある場合、日時や内容に変更の可能性がある。 実習オリエンテーション：実習期間の1日目に学内でおこなう。 施設オリエンテーション：各実習施設の実習指導者により臨地1日目におこなう(状況により日程等異なる)。</p> <p>【予定】 実習期間内に祝祭日がある場合は、日時や内容に変更の可能性がある。 医療施設、訪問看護ステーション等における2週間の実習である。学生1名あたり臨地を8日実施する(実習施設により異なる)。</p> <p>【スケジュール 内容】</p> <p>学内日：1週目 1日目(月)・2週目 10日目(金) 臨地実習：1週目 2日目(火) - 2週目 9日目(木) 1日目：実習オリエンテーション 2日目 - 9日目：看護師等と同行、カンファレンス等 1週目(金) 臨地：カンファレンスは1週目の学び 2週目(最終日) 臨地：カンファレンスは臨地実習における学び 10日目：本実習における学生同士の学びの共有・実習のまとめ・実習記録の提出</p> <p>〔臨地〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師同行で訪問した療養者(患者)の生活機能をとおした看護援助の内容を実習記録に記載し療養者(患者)を生活者としてとらえる。 ・看護師同行で参加した援助についての振り返りを行う。 ・在宅療養(移行)支援について、看護師同行、多(他)職種連携、地域・他機関連携をとおして学生主体で質問や確認をおこない、地域・在宅看護における生活支援の実際を学ぶ。 ・地域における看護師の活動の場において、地域住民の(介護)予防や生活を維持する力等の現状および課題についての学びも含む。 <p>〔学内〕</p> <p>学生同士における学習の共有および実習記録の整理・提出をおこなう。</p> <p>【フィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別における指導や面談等をおこなう。 ・実習記録等に指導内容やコメントの記載、口頭での助言等をおこなう。 	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
<p>該当するデータはありません</p>			

基本情報

科目名	母性看護学実習
時間割コード	0126331001
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	牛之濱 久代
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
牛之濱 久代、三宮 千尋、中島 奈美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的：母性看護学で学んだ知識、技術を統合し、周産期における母子と家族に対し、身体的・心理的・社会的特性を理解し、個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの生涯を通じた健康支援の必要性と看護について考察する。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子と家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、各期の適応の過程を明らかにすることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理を述べることができる。 2) 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。 2. 周産期の母子とその家族のニーズを明らかにし、安全・安楽を考慮したケアを見学もしくは実践し、評価できる。 3. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。 2) 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源と妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。 3) 母子保健医療チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。 4) グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。 5) 看護学生として基本的な行動がとれる(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど)。 4. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。 2) 今後の学習課題について述べるができる。
履修上の注意事項	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークブック：一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集の記載と見直し 2. 看護過程事例の加筆・修正：母性看護学方法論で展開した帝王切開事例 3. 母性看護術：妊産褥婦及び新生児の健康アセスメント、沐浴・清拭、妊婦健診、NSTなどの練習 <p>事前課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子支援に関するレポート：母子支援に関する法律・施策、実習予定地域の特徴・母子保健統計、子育て支援の課題と現状、サポート資源 子育て支援拠点事業所実習初日に提出する。提出がない場合は実習できないので注意すること。 2. 様式0の記載：病院実習初日に提出し面接を受ける。 <p>以上について十分準備を行い、実習に備えてください。</p> <p>事後学習として、看護師国家試験問題、周産期事例問題に取り組むこと(2時間を想定しています)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目的・目標の達成度(役割理解、看護実践・記録、課題の明確化)80% 2. 実習態度(予習・復習、主体性・積極性、カンファレンス参加状況、記録物の内容及び提出状況)20%実習内容に対するフィードバックは、カンファレンス、評価面接時に行います
テキスト	<p>森恵美他編集・著『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>森恵美他編集・著『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>末岡 浩他編集・著『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』第14版、医学書院、2019年発行</p>

詳細情報

<p>参考文献</p>	<p>平澤美恵子・村上睦子(監修)『写真でわかる母性看護技術 7th Edition』インターメディカ出版、2020年発行 石村 由利子 (編集) 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』 第3版、医学書院、2020年発行 医療情報科学研究所 (編集) 『病気がみえる 産科』第4版、メディックメディア、2018年 堀内 成子 (編集) 『パ-フェクト臨床実習が10倍 母性看護第2版』 照林社、2017年 佐瀬 正勝、石村 由利子 (編集) 『ウエルネスからみた 母性看護過程 +病態関連図第4版』 医学書院、2022年 太田操編著 『ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程』 第4版、医歯薬出版、2024年発行 DVD 磯山あけみ他著 看護過程から学ぶ母性看護学実習シリーズ 医学映像教育センター 2019年 「全身の回復と子宮復古を促す看護」「母乳育児の確立に向けた看護」「新生児の子宮外生活への適応の看護」「帝王切開で出産した褥婦の看護」</p>
<p>実務経験のある教員による授業の有無</p>	<p>有</p>
<p>実務経験・実務経験を活かした教育内容</p>	<p>牛之濱 久代：看護師、助産師として病院勤務経験</p>
<p>アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施</p>	<p>母性看護学実習は学内を含めすべて体験学習である。 学内実習では、グループメンバー全員で実習準備や学び・課題の共有、技術練習を行う。 臨地実習では、各自実習目標と行動計画に沿って受持ち対象者の看護過程の展開や、母子支援の実際を見学または実施し、振り返りを行い、メンバーと学びを共有し、自身の課題を明確化する。 母性看護学実習要項及び実習記録についてはCampus Squareにアップロードする。 母子支援センター実習では、Formsを用いて健康チェックを行う。</p>

授業計画

<p style="text-align: center;">授業計画</p>	
<p>1) 実習期間および実習時間 期間：2024年7 月初旬～2025 年1 月中旬 時間：9：00～15：30（実習施設により異なる） 2) 実習施設：地域子育て支援センター（1週間）、周産期の対象者を受け持つことが可能な病棟（1週間） 3) 学内日と臨地実習：子育て支援センター：金曜日、 臨地：月曜日（但し、祝日がある場合はこの限りではない） 4) 実習方法 (1) 事前学習：母性看護学実習ワークブック、看護過程事例の加筆、修正を行い母性看護に必要な知識を復習しておく。 母性看護技術について自己練習しておく。 (2)事後学修：毎日、日々の記録実施評価を記載する。（毎日2時間）看護師国家試験母性事例設定の問題に取り組む。（最終日2時間） 5) 実習内容 (1) 病院実習の概要： 病棟の特性や対象者の特性を理解し、同意の得られた対象者に行われる援助を見学・一部実施を行う。 最終日カンファレンスで実習のまとめを行い、自己の学習課題を明確にする。 (2) 地域子育て支援事業所の概要： 施設を利用している両親および子どもに行われているサポートをスタッフまたはボランティアスタッフとともに見学または実践する。 機会があれば事業所で行われている教室（両親学級、ベビーマッサージ教室等）を見学する。 最終日カンファレンスで実習のまとめを行い、自己の学習課題を明確にする。</p>	

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
<p>該当するデータはありません</p>			

基本情報

科目名	看護科教育法
時間割コード	0126400101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	月 3, 火 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. 「看護」に興味を持ち、主体的な学習を継続できるようになるための教授－学習過程を考える。 2. 看護者・教育者としての資質を高めるために必要な自己の課題を明らかにする。 3. 「こころ」豊かな人間性を養い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力を身につける。
履修上の注意事項	講義のほかにそれぞれが課題を設定し取り組む課題学習、グループ学習・発表を行い（アクティブラーニング）、教育者として必要な基礎的能力について学ぶ。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、事前・事後学習を含めた自己の学習計画を考える。事前課題は授業内容の予習でもあり、事前課題で取り組んだ内容を基に意見交換、発表をする。事後課題は授業で学習した内容をレポートにまとめる。事前・事後課題に要する時間は各2時間である。
評価方法	筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト・レポートと提出、グループ活動の参加と発表）：40%
テキスト	『看護教育学 第7班』杉森みど里・舟島なをみ、医学書院、2021. 『高等学校学習指導要領解説看護編』、文部科学省、東京法令出版、2019. 『ヒューマンケア入門』、柴田恵子、幻冬舎、2022.
参考文献	随時紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	実務経験：古江；看護師として病院に勤務、柴田；養護教諭として小中高校に勤務。 実務経験を活かした教育内容：看護師の経験をもとに看護ケア実践の内容を教材化するための教育方法について教授する。学校の勤務経験をもとに対象となる高校生への教育的な関わりと指導について教授する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	○事前課題での学習を授業で確認する反転授業を取り入れ、授業でのグループワークでは課題について意見交換をする。プレゼンテーションの準備から実施までを確認し、教壇実習に活かせるように教授する。 ○ICT教育としては、事前・事後課題用の授業資料をCampus Squareにアップロードする。

授業計画

授業計画
オリエンテーション時に授業計画について説明するので、各自が学習計画を立案すること。 事前事後学修に要する時間は各2時間である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、看護教育に関する知識の確認（柴田）	既習内容から看護教育について復習する	看護学概論の教科書を持参する
2	看護教育制度の特徴（柴田）	事前学習は看護学概論の教科書の該当する内容を事前に読み、事後学習では看護教育制度の特徴について文章化し説明する。	
3	看護教育制度の変遷（柴田）	事前課題では教育制度について調べる。事後課題では制度に対応して年代を追った変遷について確認する。	
4	看護基礎教育課程とその変遷（柴田）	看護基礎教育課程について事前に調べる。事後課題では制度との関連性をまとめる。	

授業計画

オリエンテーション時に授業計画について説明するので、各自が学習計画を立案すること。
事前事後学修に要する時間は各2時間である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	高等学校-看護-に関する基礎知識：教授・学習活動（柴田）	事前学習は高等学校における職業教育について調べる。事後学習は高校の看護科について授業内容を基にまとめる。	
6	高等学校-看護-の指導におけるICTの活用（柴田）	事前学習では教育におけるICTの必要性について調べる。事後活動では看護教育におけるICTの活用場面についてまとめる。	
7	高等学校-看護-の技術指導におけるICTの活用（柴田）	事前学習では看護技術の一つを選び、技術指導について考えレポートを作成する。事後活動では教材作成の方法をまとめる。	グループ学習、発表
8	小テスト1、課題学習の報告（柴田）	事前課題としては実習における教材化について調べる。事後課題は教材化における注意点をまとめる。	発表
9	授業展開の基礎（古江）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
10	授業展開の実際（古江）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
11	授業展開と授業評価（古江）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
12	教育実習の実際（柴田）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
13	学習指導要領の理解（柴田）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
14	学習指導要領：高校看護の理解（柴田）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	
15	小テスト2、グループ討議：職業教育-看護-について（柴田）	事前学習は講義内容についてテキストを読みまとめる。事後課題は学習した内容をまとめる。	グループ学習、発表

基本情報

科目名	看護科教育法
時間割コード	0126400201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	月 4, 月 5
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織、宮園 博光

詳細情報

授業の目的・到達目標	教壇実習で必要となる授業展開の実際について、模擬授業を実施することで習得する。講義、演習、実習で必要となる授業展開を理解する。看護科教育法の学習を通して、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけた教員を目指すための自己の課題を明らかにする。
履修上の注意事項	看護科教育法 を履修済みであること。看護科教育法 の履修を基にした授業展開を行う。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習、準備は各自が行う。事前課題は授業内容に関する予習でもあり、授業では事前課題の内容を基に意見交換、発表を行う（アクティブラーニング）。事後課題は授業内容を基にし、レポートを作成することでまとめる。事前・事後課題に要する時間は各2時間である。
評価方法	定期試験（筆記）：60%、学習態度（レポート提出状況、レポート内容、グループ討議時の発言状況）：40%。フィードバックとしては事前課題については授業で内容を確認し、事後課題については後日の授業内容で取り上げる。
テキスト	第1学期に購入したテキストを引き続き使用する。 『看護教育学 第7班』杉森みど里・舟島なをみ、医学書院、2021．『高等学校学習指導要領解説看護編』、文部科学省、東京法令出版、2019．『ヒューマンケア入門』、柴田恵子、幻冬舎、2022．
参考文献	必要に応じて指示し、紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	実務経験：古江：看護師として病院に勤務。柴田：養護教諭として小中高校に勤務。 実務経験を活かした教育内容：看護師の経験をもとに看護ケア実践の内容を教材化するための教育方法について教授する。学校の勤務経験をもとに対象となる高校生への教育的な関わりと指導について教授する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	○事前課題での学習を授業で確認する反転授業、グループワークでの発見学習、他者との意見交換でディスカッションをすることで問題解決学習に取り組む。 ○ICTを取り入れた授業としては、事前・事後学習の授業資料をCampus Squareにアップロードする。

授業計画

授業計画
第1回の講義時のオリエンテーションで説明するので、各自が学習計画を立案すること。 事前事後学修に要する時間は各2時間である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、夏季休業中の課題を発表する（柴田）	オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習の詳細な内容についてはキャンパススクエアで確認する。	グループ学習、発表
2	指導案の構成要素（柴田）	事前学習は指導案の構成要素を調べる。事後学習では構成要素の記述方法についてまとめる。	
3	看護臨床実習指導の基礎知識（柴田）	事前学習は臨床看護実習について教科書を読む。事後学習は臨床実習における指導の注意点を記録する。	

授業計画

第1回の講義時のオリエンテーションで説明するので、各自が学習計画を立案すること。
 事前事後学修に要する時間は各2時間である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	看護臨床実習指導：週案、日案の確認（柴田）	事前学習は実習における指導計画について調べる。事後学習は週案・日案の特徴をまとめる。	グループ学習、発表
5	模擬授業の知識、技術の確認（柴田）	事前学習は模擬授業指導案を作成する。事後学習は作成した指導案の修正を行う。	
6	模擬授業の実際（古江）	事前学習は模擬授業案を基に授業展開をイメージし課題を明らかにする。事後学習は実施した模擬授業についての気づきをまとめる。	
7	模擬授業の評価（古江）	事前学習は模擬授業の評価について調べる。事後学習は模擬授業の評価における気づきをまとめる。	
8	小テスト1、教育実習の報告会から教壇実習について考える（柴田）	事前学習では教壇実習に向けての自己の課題を明らかにする	グループ学習、発表
9	グループ討議：模擬授業（柴田）	事前学習は模擬授業の実施について意見をまとめる。事後学習はグループ討議での気づきをまとめる。	
10	指導案の評価と修正（柴田）	事前学習は模擬授業指導案の作成である。事後学習は作成した模擬授業について自身の評価を行い修正する。	
11	指導案作成のまとめ（柴田）	事後学習は指導案作成から実施・評価の一連の流れにおいて、自身の課題になったことをまとめる。	
12	看護臨床実習の指導計画案作成（柴田）	事前学習は臨床看護実習の指導案を作成する。事後学習は看護臨床実習指導案作成時の注意点を整理する。	グループ学習、発表
13	ICTを活用した指導の実際（宮園）	事前学習は看護臨床実習におけるICT活用について調べる。	発表
14	グループ討議：看護基礎教育におけるICT活用（宮園）	事後学習はICT活用の利点と課題をまとめる。	
15	小テスト2、グループ発表：高等教育における看護教育（柴田）	高等学校の看護教育について考え、高校教員としての自身の課題を見出す。	発表